下水道モニター
平成 23 年度 第 3 回アンケート結果

第３回アンケートでは、下水道局の「報告・広報事業」および「環境負荷低減の取り組み」に対するご意見を伺いました。また、モニターの方の「家庭での「浸水対策」についてもお伺いしました。

この報告書は、その結果をまとめたものです。

◆ 実施期間　平成 23 年 9 月 5 日（月）～9 月 20 日（火）16 日間

◆ 対 象 者　東京都下水道局「平成 23 年度下水道モニター」
※東京都在住 20 歳以上の男女個人

◆ 回答者数　657 名

◆ 調査方法　ウェブ形式による自記式アンケート

Ⅰ　結果の概要

Ⅱ　回答者属性

Ⅲ　集計結果

１．下水道局の報告・広報事業に対するご意見
２．環境対策に対する意識及び評価
３．家庭での浸水への対策について
４．自由意見

Ⅰ 結果の概要

１．下水道局の報告・広報事業に対するご意見　4～13 頁

◆【「下水道局の報告・広報事業」の認知状況】…全体では「知っていた」との回答が高くなった順に「1)ニュース東京の下水道」53%、「6)東京都の下水道２０１０」33%、「2)下水道なんでもガイド」31%である。

◆【「下水道局の報告・広報事業」のわかりやすさ】…全体では、「分かりやすかった」との回答が高くなった順に「1)ニュース東京の下水道」81%、「2)下水道なんでもガイド」49%、「6)東京都の下水道２０１０」48%となった。

◆【広報誌「ニュース東京の下水道」について】…広報誌「ニュース東京の下水道」の入手経験についてみる。全体では「手に取ったことがある(1 回)」44%、「手に取ったことがある(2回以上)」32%、「手に取ったことはない(インターネットで読んだことはある。)」13%となった。

◆【広報誌「ニュース東京の下水道」の入手場所】…全体でみると、「駅」37%、次いで「都立図書館」21%、「都庁受付」15%、「イベント会場」9%、「小中学校」４%が続く。

２．環境対策に対する意識及び評価　14～31 頁

◆【下水道の「高度処理対策」の認知状況】…全体では、「知らなかった」との回答が高く、72%となった。「知っていた」は 28%であった。男女別にみると、男女とも「知っていた」との回答が低くなった。女性が「知っていた」と回答した割合が男性よりも 16 ポイント低くなった。年代別にみると、年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が高くなった。

◆【下水道の「高度処理対策」の重要度】…全体では「かなり重要である」との回答が高く、46%となった。「非常に重要である」と「かなり重要である」を足した「重要である」（以降、「重要である」と表記）は 89%となった。男女別にみると、男性の方が「重要である」との回答が女性よりも２ポイント高くなった。

◆【下水道の「高度処理対策」の社会的貢献度】…「非常に貢献度がある」と「かなり貢献度がある」との回答を足した「貢献度がある」は全体で 88%となった。

◆【下水道の「高度処理対策」の社会的貢献に対する理由】…社会的貢献として、「環境保全」の貢献を認める意見が 23%と最も高かった。次いで、「水質改善・保全」（19%）、「生態系保全・生物への影響軽減」（15%）などが挙げられた。

◆【下水道局の「地球温暖化対策」の認知状況】…全体では、「知らなかった」との回答が高く、69%となった。「知っていた」は 31%であった。男女別にみると、男性の方が「知っていた」との回答が高く、女性よりも 15 ポイント高くなった。年代別にみると、全体的な傾向としては、年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が高くなった。

◆【下水道局の「地球温暖化対策」の重要度】…全体では「非常に重要である」と「かなり重要である」を足した「重要である」は 90%となった。男女別にみると、女性の方が「重要である」との回答が男性よりも１ポイント高くなった。

◆【下水道局の「地球温暖化対策」の社会的貢献度】…全体では「かなり貢献度がある」との回答が高く、47%となった。「非常に貢献度がある」と「かなり貢献度がある」との回答を足した「貢献度がある」は 87%となった。男女別にみると、女性の方が「貢献度がある」との回答が男性よりも３ポイント高くなった。年代別にみると、年代が上がるにつれて「貢献度がある」との回答が増えた（60 歳代を除く）。

◆【下水道局の「地球温暖化対策」の社会的貢献に対する理由】…全体では「温暖化防止は

重要」と貢献を認める意見が 38%と最も高かった。次いで、「省エネ・節電」（22%）、「環境保全」（18%）などが挙げられた。

◆【下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の認知状況】…全体では、「知らなかった」との回答が高く、53%となった。「知っていた」は 47%であった。男女別にみると、男性の方が「知っていた」との回答が高く、女性よりも 8 ポイント高くなった。年代別にみると、年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が高くなった。最も低かったのは 20 歳代で 33%、最も高かったのは 70 歳以上で 79%であった。

◆【下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の重要度】…全体では「非常に重要である」と「かなり重要である」を足した「重要である」は 91%となった。男女別では、女性の方が「重要である」との回答が男性よりも 5 ポイント高くなった。年代別では年代が上がるにつれて「重要である」との回答が増えた。

◆【下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の社会的貢献度】…全体では「非常に貢献度がある」と「かなり貢献度がある」との回答を足した「貢献度がある」は 89%となった。男女別では女性の方が「貢献度がある」との回答が男性よりも 6 ポイント高くなった。年代別では、年代が上がるにつれて「貢献度がある」との回答が増えた。

◆【下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の社会的貢献に対する理由】…全体では「水は貴重な資源だから」との意見が 59%と最も高かった。次いで、「ヒートアイランド・地球温暖化防止」（10%）、「河川浄化」（8%）などが挙げられた。

3．家庭での浸水への対策について　32～43 頁

◆【ご家庭での浸水対策について】…全体では「この中でやっているものはない」38%、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」35%、「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」35%の順となった。なお、浸水対策のうち、「自宅に「土のう」や「止水板」を用意している」は 1%と低い。

◆【ご家庭での浸水対策の安全性】…全体では「たぶん安全だと思う」との回答が高く、71%となった。男女別にみると、男性の方が「たぶん安全だと思う」との回答が女性よりも 4 ポイント高くなった。

◆【ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由】…「たぶん安全だと思う」と回答した方では、「高層階に居住」を理由とする方が 39%と最も高かった。「あまり安全ではないと思う」、「安全ではないと思う」と回答した方では、「川が近い」（33%）、「低地・崖地に居住」（23%）などが理由として挙げられた。

◆【「浸水対策強化月間」の認知度】…「聞いたことがない」47%、「言葉を聞いたことがある程度」28%、「少しは内容や意味を知っている」20%、「内容や意味を知っている」4%となった。年代別にみると、年代が上がるに従って「聞いたことがない」との回答が低くなった。最も高くなったのは 20 歳代で 62%、最も低くなったのは 70 歳以上の 26%であった。

◆【「浸水対策強化月間」の認知率・理解度】…全体では、認知率は 52%、理解度は 4%となった。

4．自由意見　44～47 頁

◆【「下水道局の報告・広報事業」を多くの人に知ってもらうための取り組み】…「都・区・市町村広報誌と連携」とするご意見が 16%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオの活用」についての内容が 14%と高かった。

Ⅱ 回答者属性

- 平成 23 年度下水道モニター数は、アンケート実施時で 1,023 名である。
- 第 3 回アンケートは、平成 23 年 9 月 5 日（月）～9 月 20 日（火）までの 16 日間で実施した。その結果、657 名の方からの回答があった。（回答率 64%）

■回答者 性別・年代

性別･年代		回答者数	モニター数	回答率
男性	20 歳代	24	38	63.2%
	30 歳代	46	86	53.5%
	40 歳代	81	122	66.4%
	50 歳代	38	55	69.1%
	60 歳代	72	90	80.0%
	70 歳以上	30	38	78.9%
	小計	291	429	67.8%
女性	20 歳代	34	74	45.9%
	30 歳代	116	214	54.2%
	40 歳代	112	168	66.7%
	50 歳代	57	75	76.0%
	60 歳代	38	52	73.1%
	70 歳以上	9	11	81.8%
	小計	366	594	61.6%
合計		657	1,023	64.2%

■回答者 居住地域

地　域	回答者数	モニター数	回答率
２　３　区	384	592	64.9%
多摩地区	273	431	63.3%
合　計	657	1,023	64.2%

■回答者 職業

職　業	回答者数	モニター数	回答率
会社員	227	380	59.7%
公務員	2	0	―
自営業	45	59	76.3%
学生	13	21	61.9%
私立学校教員・塾講師	8	6	133.3%
パート	56	80	70.0%
アルバイト	14	17	82.4%
専業主婦	196	327	59.9%
無職	77	101	76.2%
その他	19	32	59.4%
合計	657	1,023	64.2%

※モニター数と回答者数については、職業の変化等により、一致しないことがある。

Ⅲ 集計結果

※ 文中の「ｎ」は、質問に対する回答者数で、比率(%)はすべて「ｎ」を基数(100%)として算出している。
また、小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が 100%にならないこともある。

１．下水道局の報告・広報事業に対するご意見

１－１．「下水道局の報告・広報事業」の認知状況

- **下水道局の広報誌の認知状況についてみる。全体で「知っていた」との回答が高くなった順に「1)ニュース東京の下水道」53%、「6)東京都の下水道２０１０」33%、「2)下水道なんでもガイド」31%である。**
- **男女別にみると、上位 3 位まで全体と同じ傾向となった。なお、女性は「2)下水道なんでもガイド」、「6)東京都の下水道２０１０」はともに 30%となった。**
- **年代別にみると、30 歳代を除き、全体と同じ傾向となった。30 歳代は「1)ニュース東京の下水道」43%、「6)東京都の下水道２０１０」25%、「2)下水道なんでもガイド」29%となった。なお、50 歳代、70 歳以上は 2 位と 3 位の回答割合が同じとなった。**
- **地域別にみると、上位 3 位まで全体と同じ傾向となった。**

Q1. 東京都下水道局が行っている広報活動や報告活動についておうかがいします。以下のそれぞれの広報誌について、あなたはご存知でしたか。1)～6)それぞれについて、選択肢の中から該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)。

図 1-1　「下水道局の報告・広報事業」の認知状況

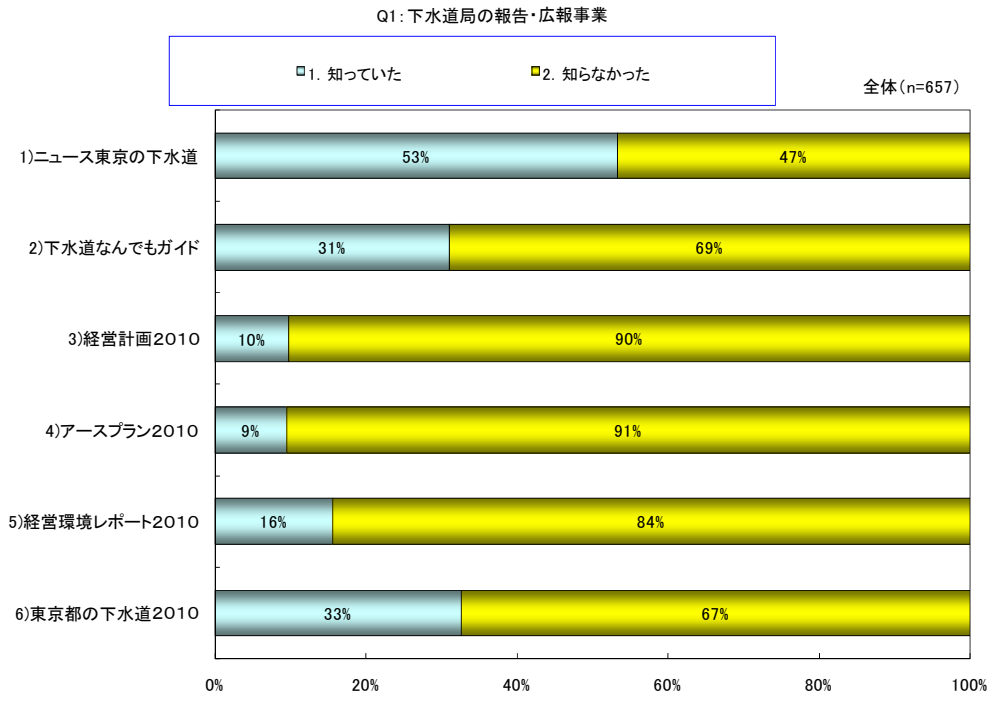
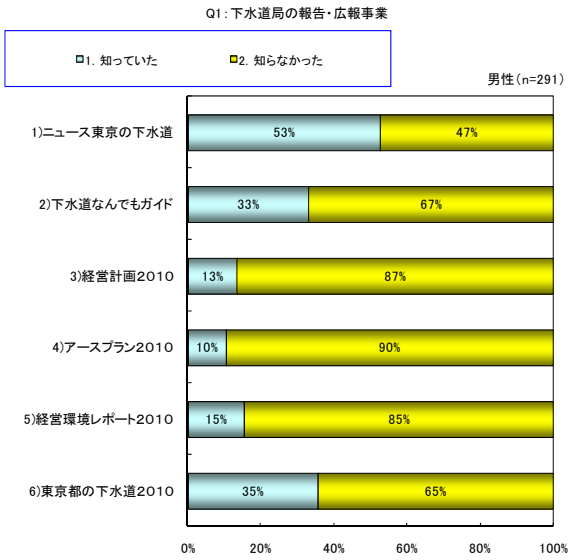


図 1-2　「下水道局の報告・広報事業」の男女別認知状況



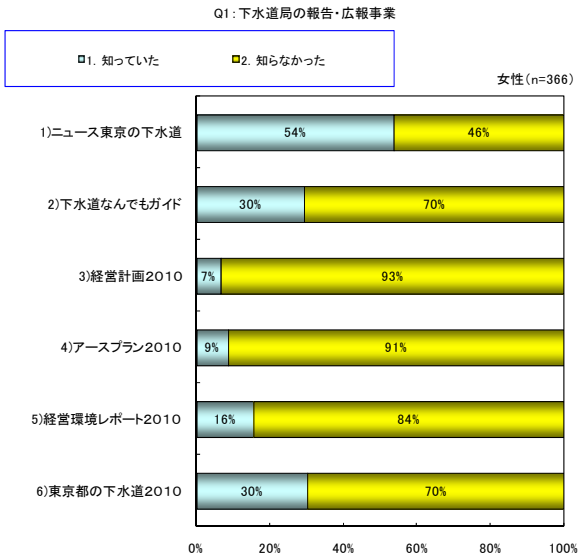
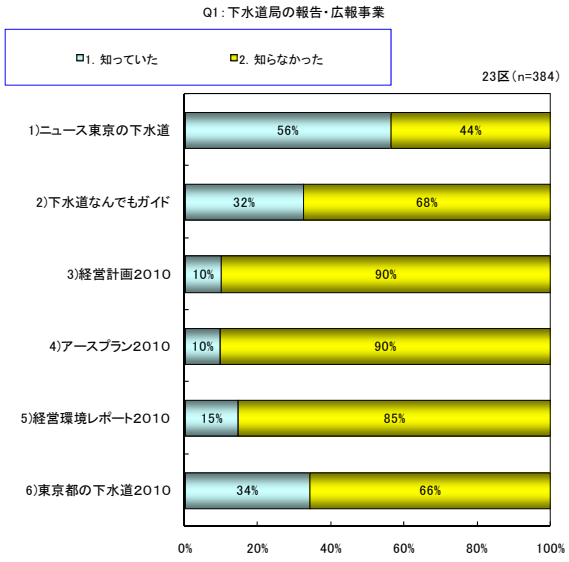


図 1-3　「下水道局の報告・広報事業」の地域別認知状況



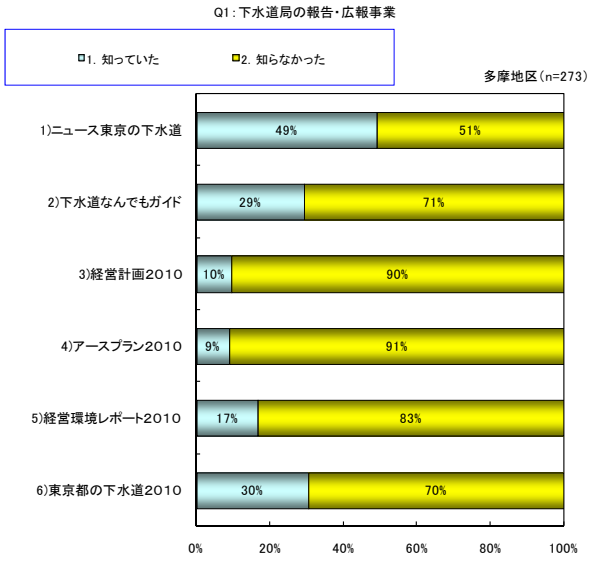
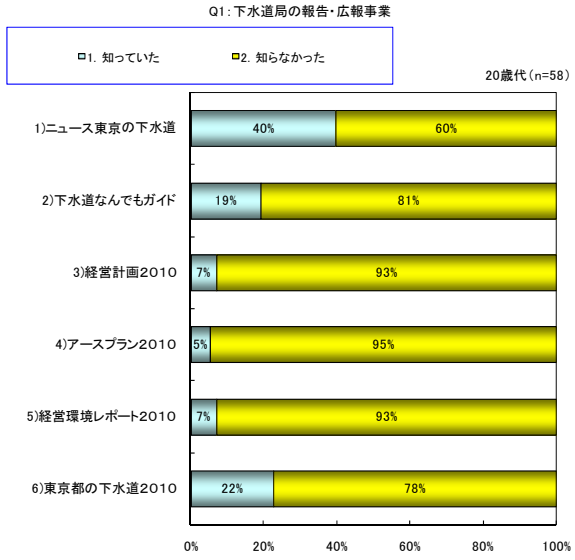
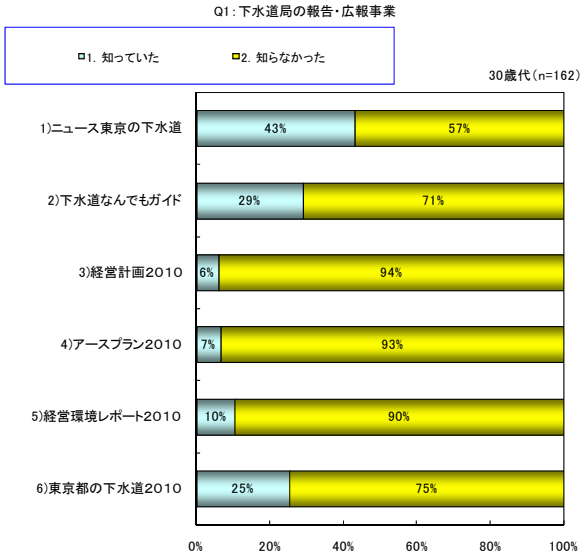
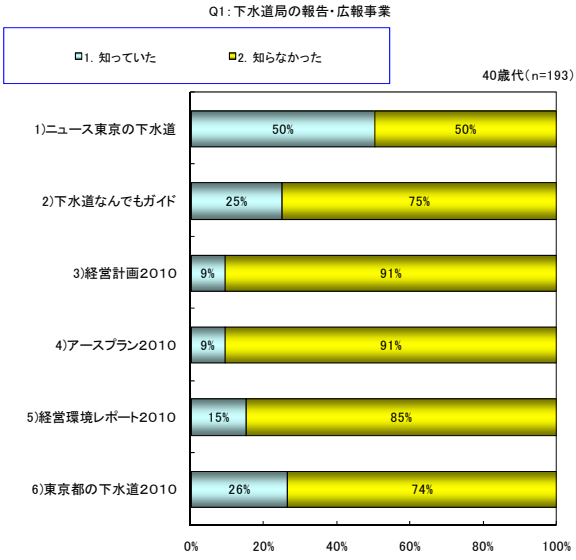
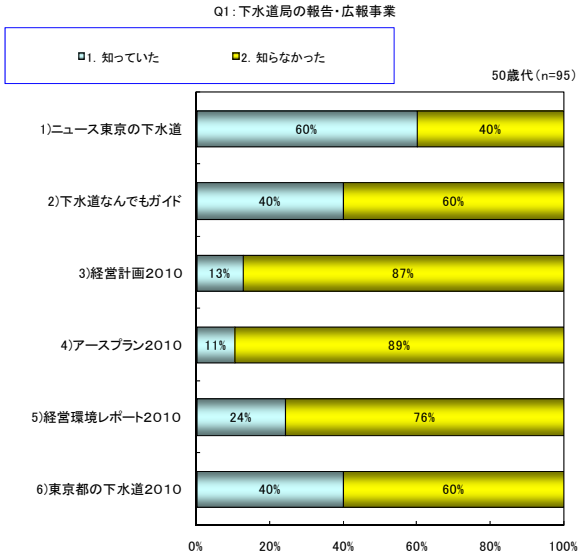


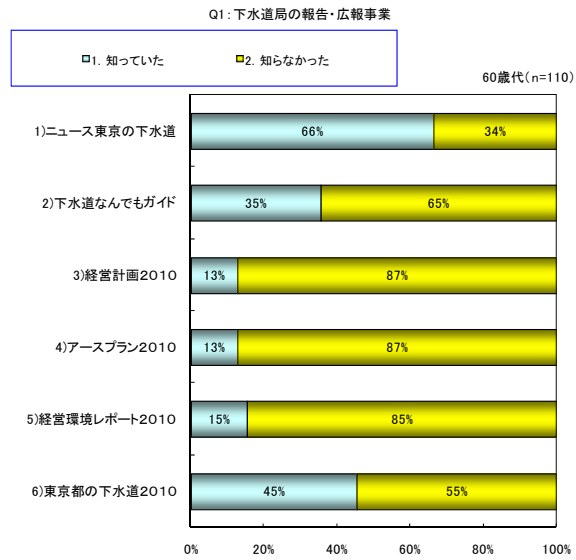
図 1-4　「下水道局の報告・広報事業」の年代別認知状況

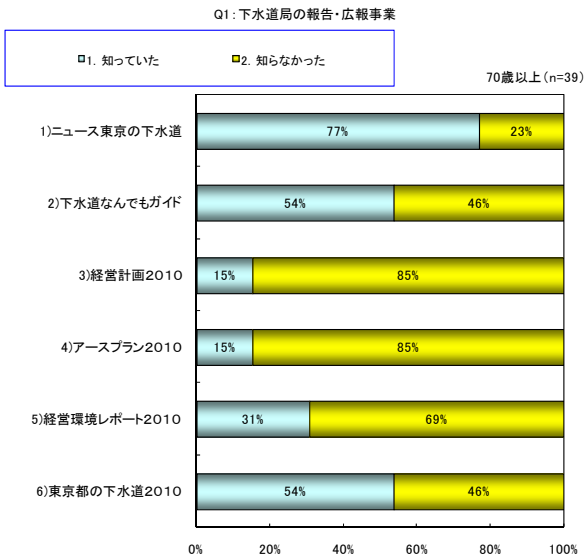












1－2．「下水道局の報告・広報事業」のわかりやすさ

- **下水道局の各広報誌のわかりやすさをみる。全体では、「分かりやすかった」との回答が高くなった順に「1)ニュース東京の下水道」81%、「2)下水道なんでもガイド」49%、「6)東京都の下水道２０１０」48%となった。**
- **男女別、地域別にみると、上位 2 位について全体と変わらなかった。年代別にみると、60 歳代を除き、上位 2 位は全体と同じ傾向を示した。なお、60 歳代において「1)ニュース東京の下水道」79%、「6)東京都の下水道２０１０」55%、「2)下水道なんでもガイド」41%となり、全体とくらべて 2 位と 3 位が逆転した。50 歳代では、「5)経営環境レポート２０１０」の割合が高くなり 2 位となった。**

Q2. Q1. で「知っていた」と答えた方におうかがいします。それぞれの内容はわかりやすかったですか。1)～6)それぞれについて、選択肢の中から該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)。

図 1-5　「下水道局の報告・広報事業」のわかりやすさ

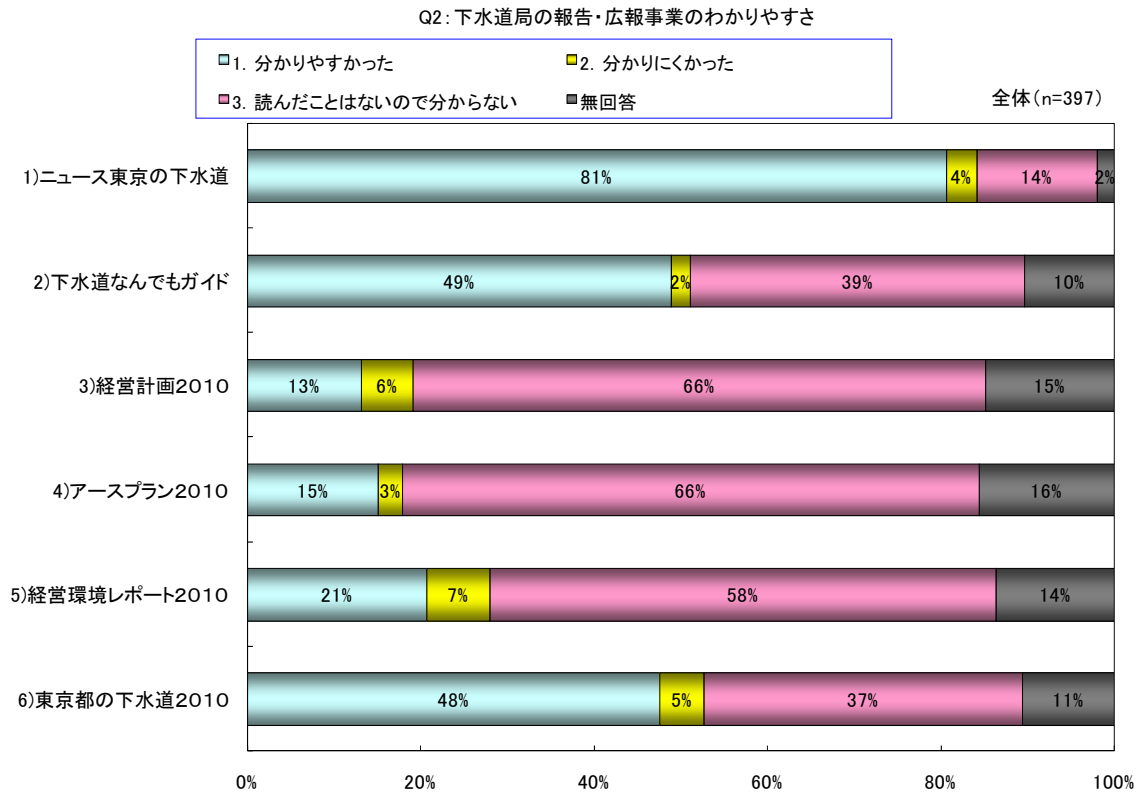
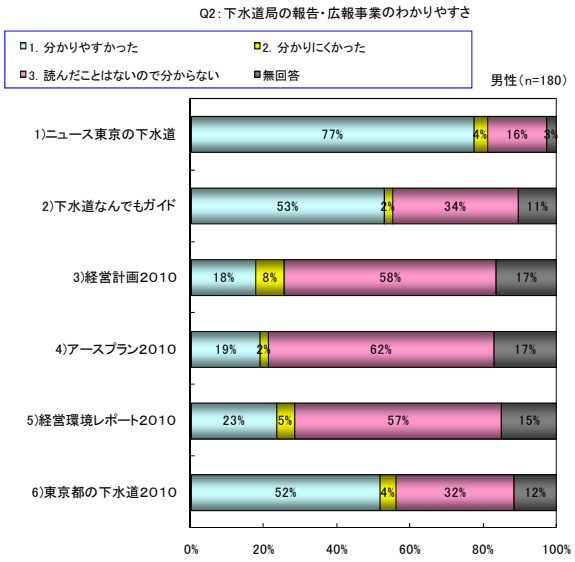


図 1-6　「下水道局の報告・広報事業」の男女別わかりやすさ



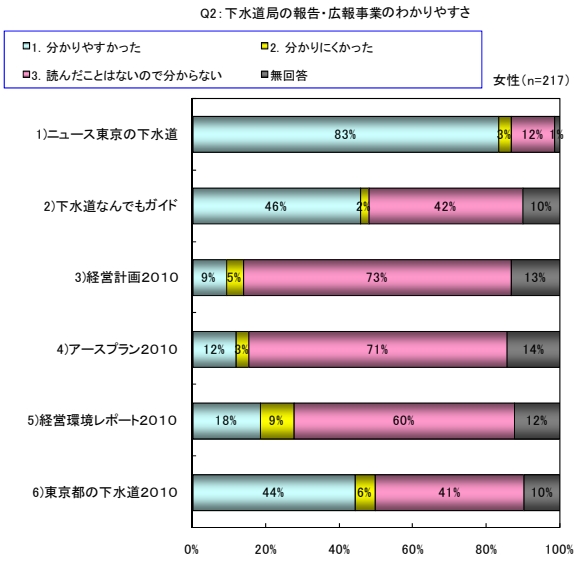
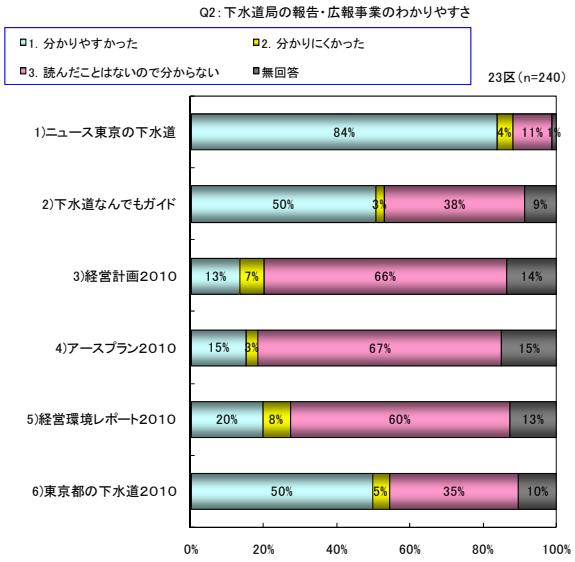


図 1-7　「下水道局の報告・広報事業」の地域別わかりやすさ



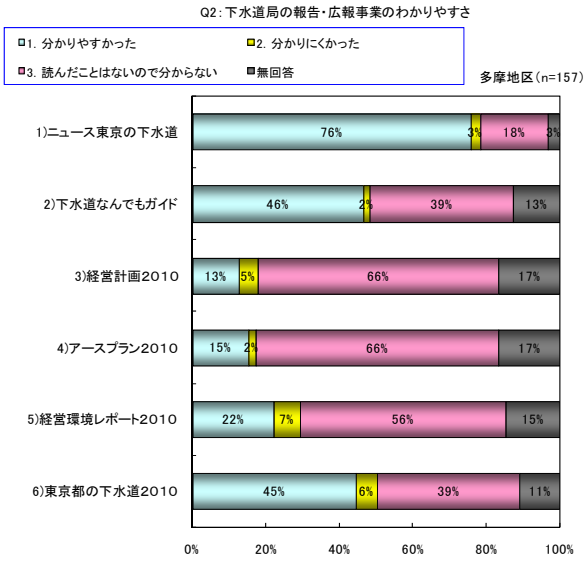
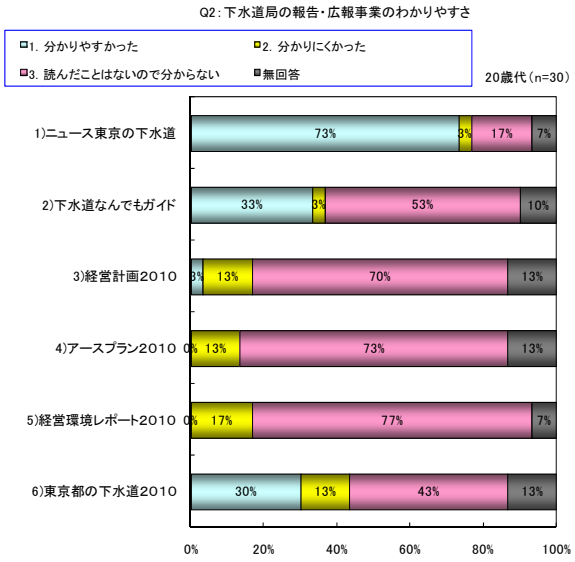
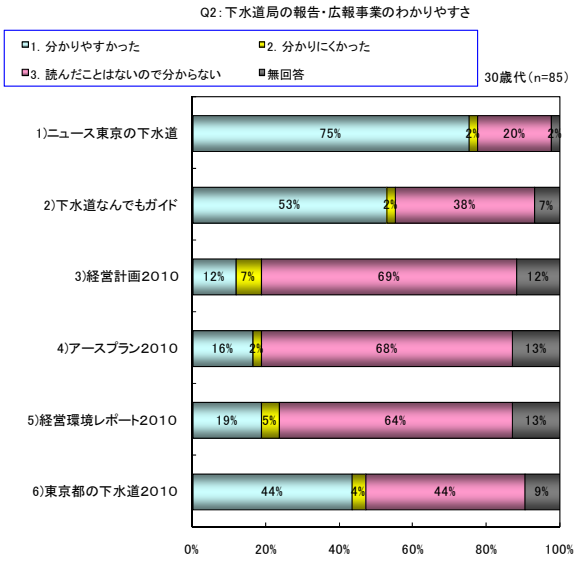
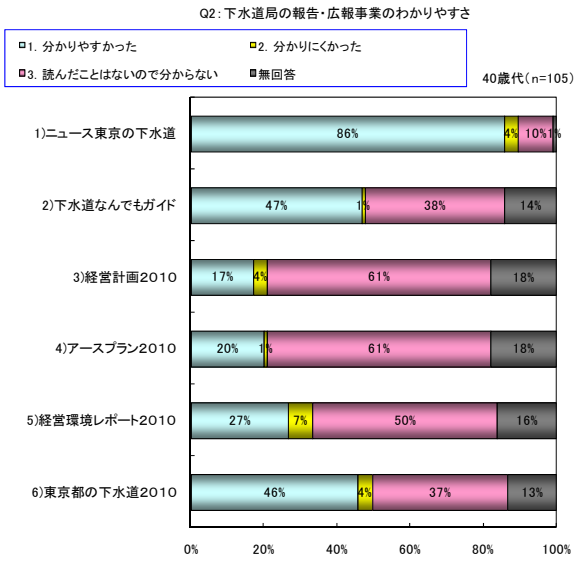
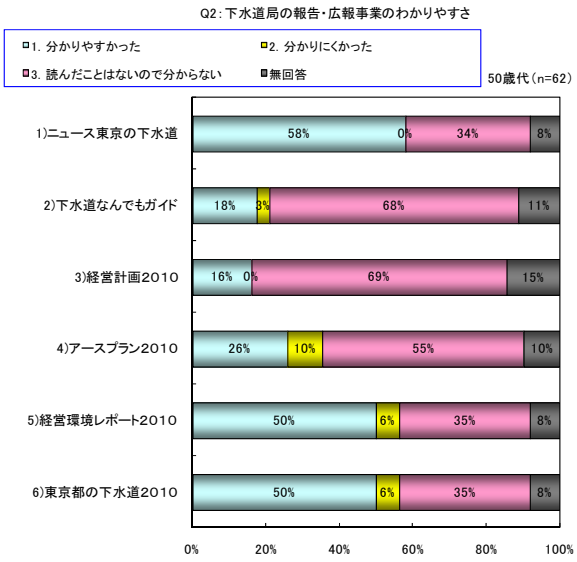


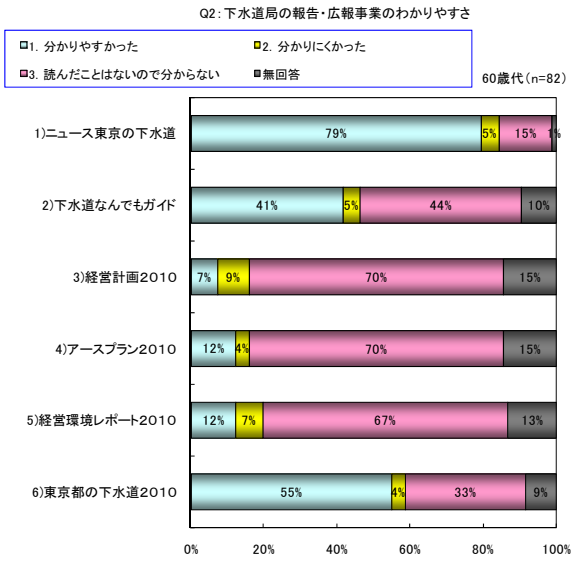
図 1-8　「下水道局の報告・広報事業」の年代別わかりやすさ

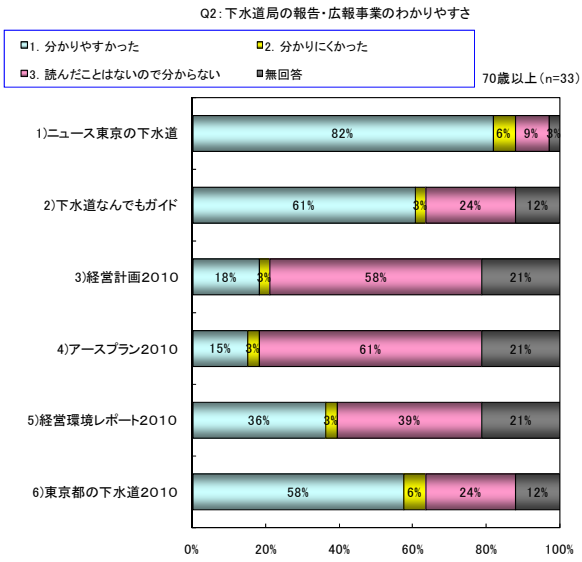










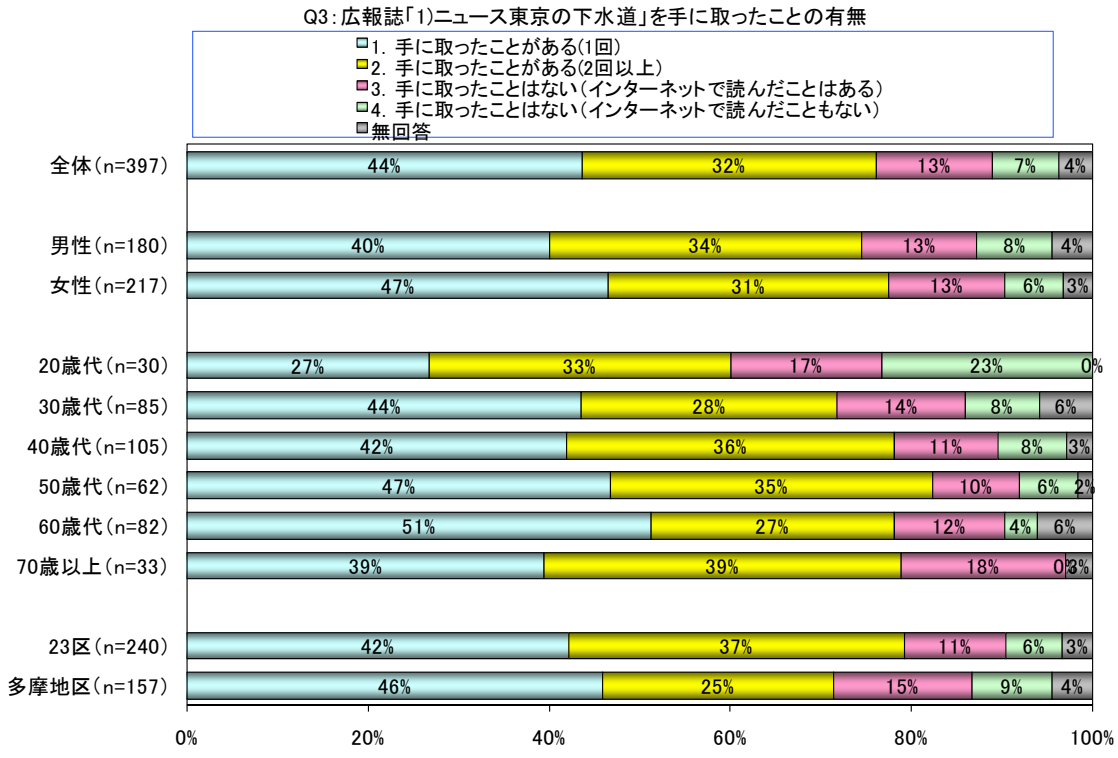


1－3．広報誌「ニュース東京の下水道」について

- 広報誌「ニュース東京の下水道」の入手経験についてみる。全体では「手に取ったことがある(1 回)」44%、「手に取ったことがある(2 回以上)」32%、「手に取ったことはない（インターネットで読んだことはある)」13%となった。
- 男女別・地域別にみると、順番は全体と同じであった。男女別にみると、1 番目となった「手に取ったことがある(1 回)」は女性が男性よりも 7 ポイント高くなった。また、地域別にみると、1 番目となった「手に取ったことがある(1 回)」は多摩地区が 23 区よりも 4 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、20 歳代、70 歳以上を除き順番は全体と同じとなった。20 歳代は「手に取ったことがある(2 回以上)」33%、「手に取ったことがある(1 回)」27%、「手に取ったことはない（インターネットで読んだこともない)」23%となった。70 歳以上では「手に取ったことがある(1 回)」39%、「手に取ったことがある(2 回以上)」39%、「手に取ったことはない（インターネットで読んだことはある)」18%となった。
- 20 歳代での「手に取ったことはない（インターネットで読んだこともない)」回答が他の年代に比べ高くなった。

Q3. Q1. で「知っていた」と答えた方におうかがいします。 冊子を実際に手に取られたことがありますか。該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)。

図 1-9　広報誌「1)ニュース東京の下水道」を手に取ったことの有無

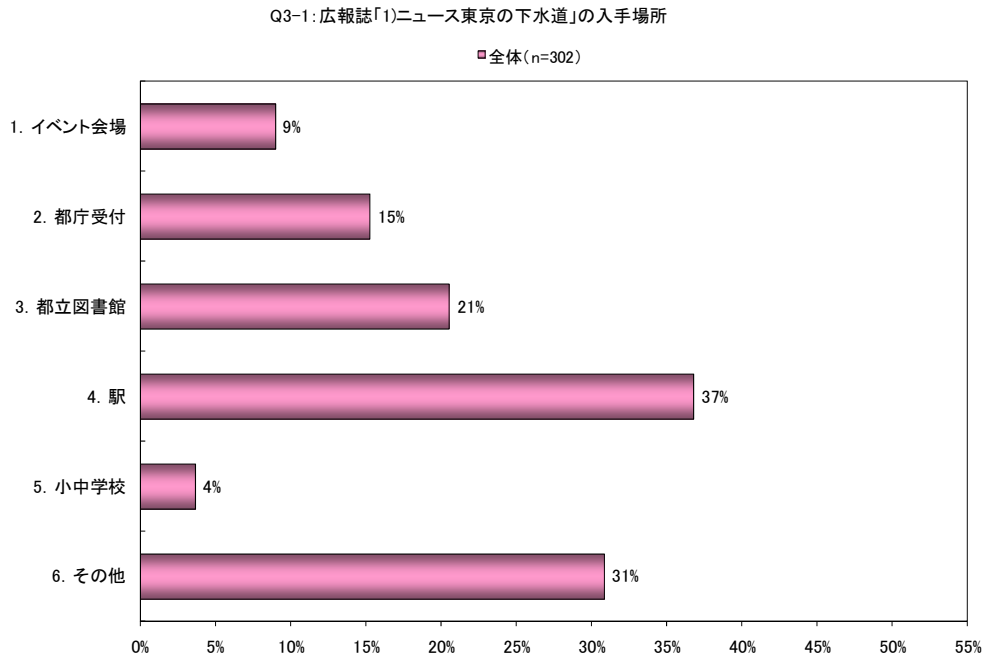


1－4．広報誌「ニュース東京の下水道」の入手場所

- **広報誌「ニュース東京の下水道」の入手場所についてみると、「駅」37%、次いで「都立図書館」21%、「都庁受付」15%、「イベント会場」9%、「小中学校」4%が続く。**
- **男女別にみると、男性は「駅」39%、「都庁受付」21%、「都立図書館」19%、「イベント会場」13%、「小中学校」1%となった。全体と比較すると 2 位と 3 位が逆転した。次に女性は高くなった順に「駅」35%、「都立図書館」22%、「都庁受付」11%、「イベント会場」6%、「小中学校」5%となった。順番は全体と同じであった。**
- **地域別にみると、23 区は全体と同じ順番となった。多摩地区は「イベント会場」13%、「都庁受付」13%と同率となった。**
- **年代別にみる。広報誌「ニュース東京の下水道」の入手経験の設問において「手に取ったことはない（インターネットで読んだこともない）」の回答が他の年代に比べ高くなった 20 歳代に注目する。20 歳代が入手した場所は、「駅」50%、「都立図書館」22%、「イベント会場」「都庁受付」「小中学校」（ともに 11%）の順となった。**

Q4.Q3-1．Q3．で「手に取ったことがある」と答えた方におうかがいします。 あなたはどこで手に取られましたか。選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選びください。（複数回答）。

図 1-１０　広報誌「1)ニュース東京の下水道」の入手場所



＜その他の内訳＞

- 新聞折り込み
- 下水道局施設
- 区市役所・支所
- 区市立図書館

図 1-１１　広報誌「1)ニュース東京の下水道」の男女別入手場所

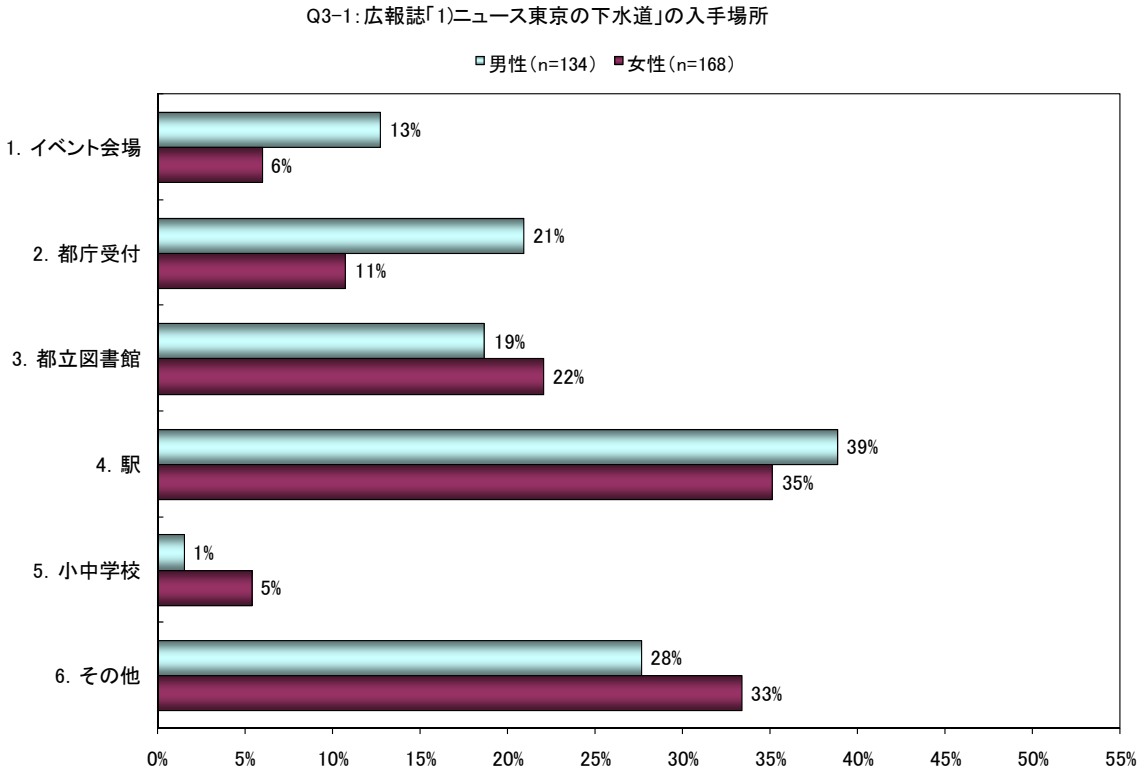


図 1-１２　広報誌「1)ニュース東京の下水道」の地域別入手場所

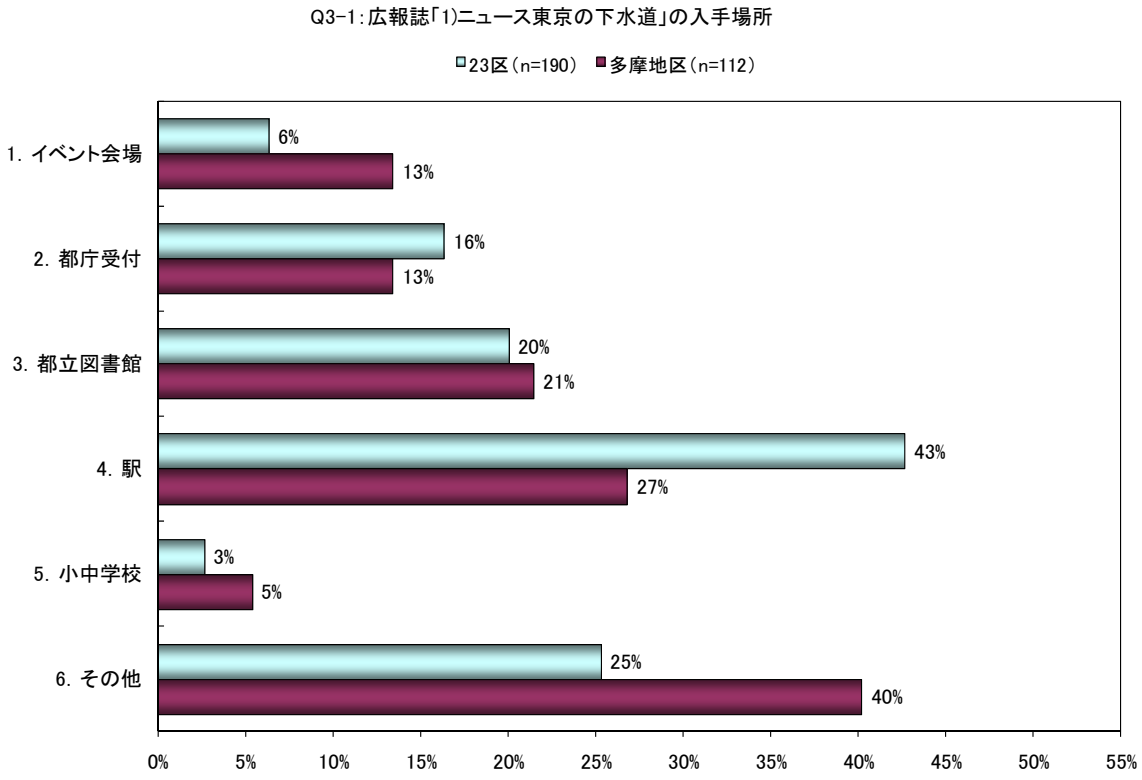
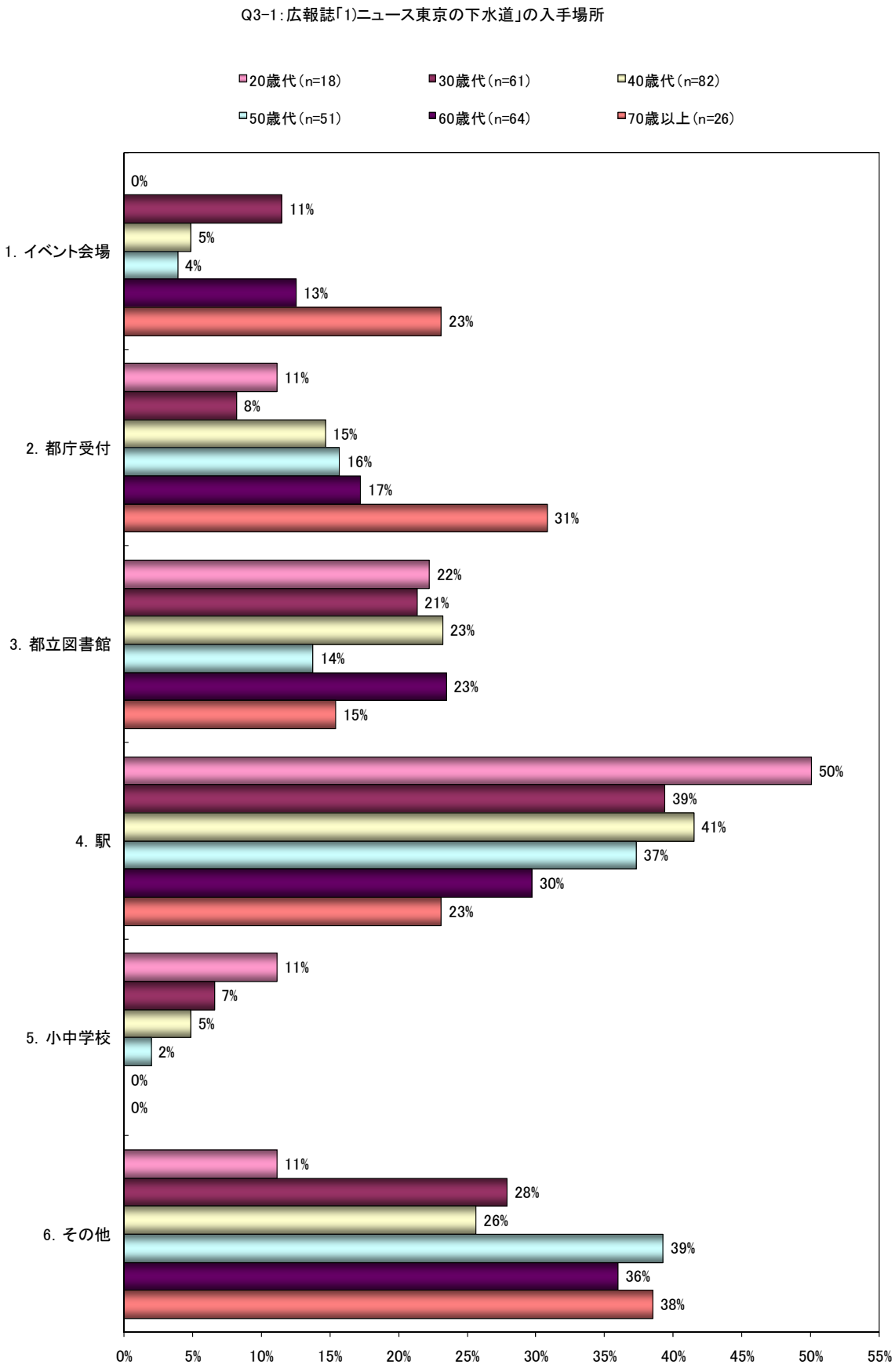


図 1-１３　広報誌「1)ニュース東京の下水道」の年代別入手場所



２．環境対策に対する意識及び評価

２－１．下水道の「高度処理対策」の認知状況

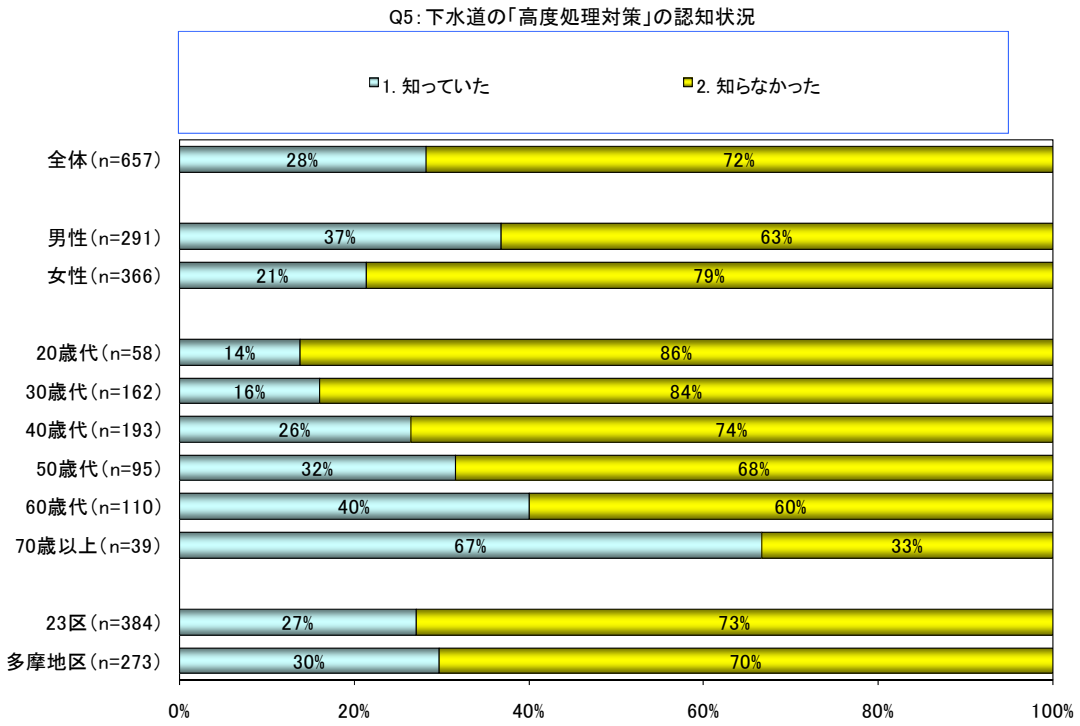
- 下水道局の「高度処理対策」の認知状況をみる。全体では、「知らなかった」との回答が高く、72%となった。「知っていた」は 28%であった。
- 男女別にみると、男女とも「知っていた」との回答が低くなった。女性が「知っていた」と回答した割合が男性よりも 16 ポイント低くなった。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が高くなる。最も低いのは 20 歳代 14%、最も高いのは 70 歳以上で 67%であった。70 歳以上は、他の年代に比べて「知っていた」との回答が高くなった。
- 地域別に「知っていた」との回答についてみると、23 区で 27%、多摩地区で 30%となり、多摩地区が 3 ポイント高くなった。

Q5.　（高度処理対策について）

下水道の整備により、河川や海などの水質は大きく改善していますが、下水道局ではさらなる水質改善を目指し、東京湾の富栄養化の一因であるちっ素とりんを同時により多く削減できる高度処理施設の整備を推進するとともに、既存施設の改造と運転管理の工夫を組み合わせることにより、ちっ素又はりんの削減効果を高める準高度処理を導入しています。

あなたは、このことをご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図 2-1　下水道の「高度処理対策」の認知状況

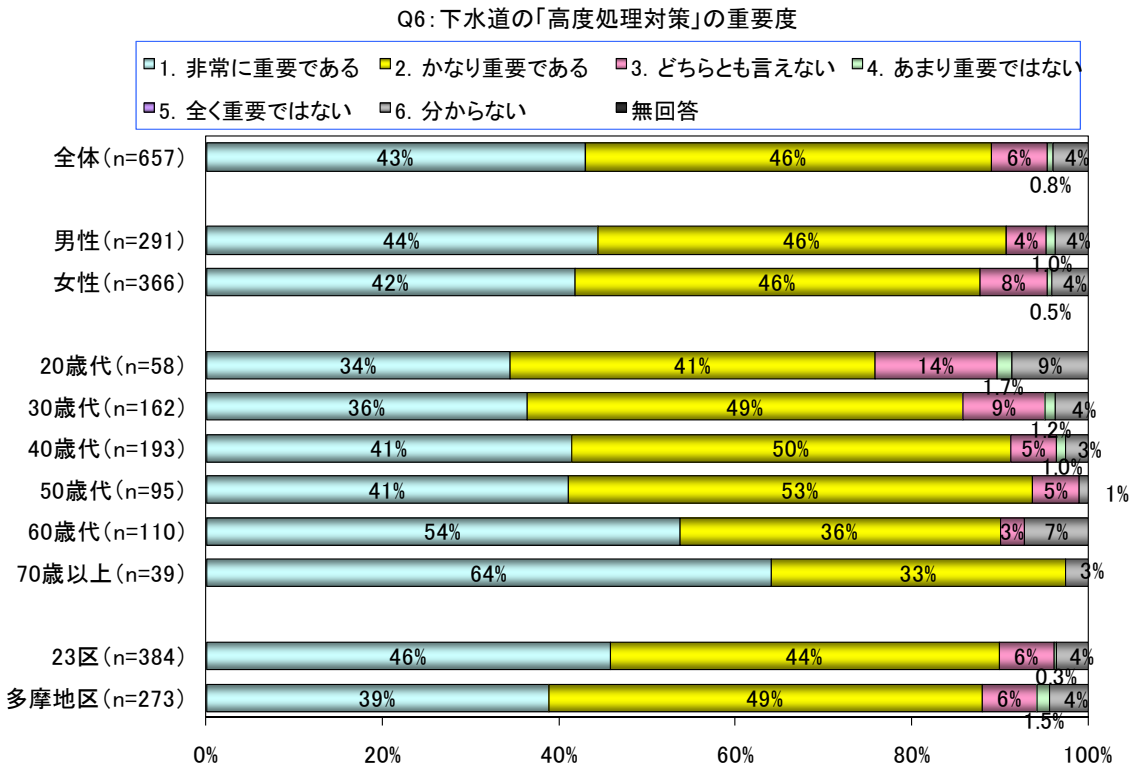


2－2．下水道の「高度処理対策」の重要度

- **下水道局の「高度処理対策」をみる。全体では「かなり重要である」との回答が高く、46%となった。「非常に重要である」と「かなり重要である」を足した「重要である」（以降、「重要である」と表記）は 89%となった。**
- **男女別にみると、男性の方が「重要である」との回答が女性よりも 2 ポイント高くなった。**
- **年代別にみると、年代が上がるにつれて「重要である」との回答が増えた（60 歳代を除く）。なお 60 歳代は 90%となった。**
- **地域別に「重要である」との回答についてみると、23 区で 90%、多摩地区で 88%となり、23 区が 2 ポイント高くなった。**

Q6. 上記 Q5 の取り組みについて、あなたはどのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図 2-2　下水道の「高度処理対策」の重要度

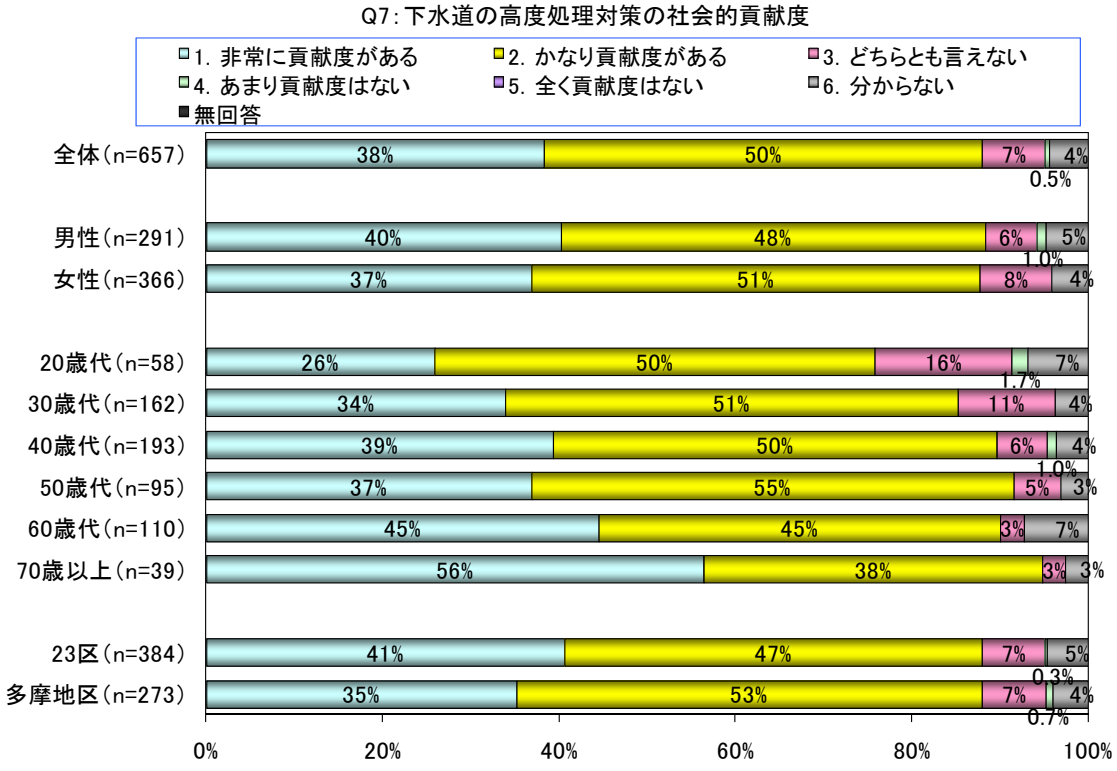


２－３．下水道の「高度処理対策」の社会的貢献度

- **下水道局の「高度処理対策」の社会的貢献度をみる。全体では「かなり貢献度がある」との回答が高く、50%となった。「非常に貢献度がある」と「かなり貢献度がある」との回答を足した「貢献度がある」（以降、「貢献度がある」と表記）は 88%となった。**
- **男女別にみると、男女とも「貢献度がある」は 88%となった。**
- **年代別にみると、年代が上がるにつれて「貢献度がある」との回答が増えた（60 歳代を除く）。なお 60 歳代は 90%となった。70 歳以上が 94%と最も高くなった。**
- **地域別にみると、23 区および、多摩地区とも「貢献度がある」は 88%となった。**

Q7. 上記 Q5 の取り組みは、我々の生活にとってどのくらい社会的な貢献度が高いと思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図２-３　下水道の「高度処理対策」の社会的貢献度

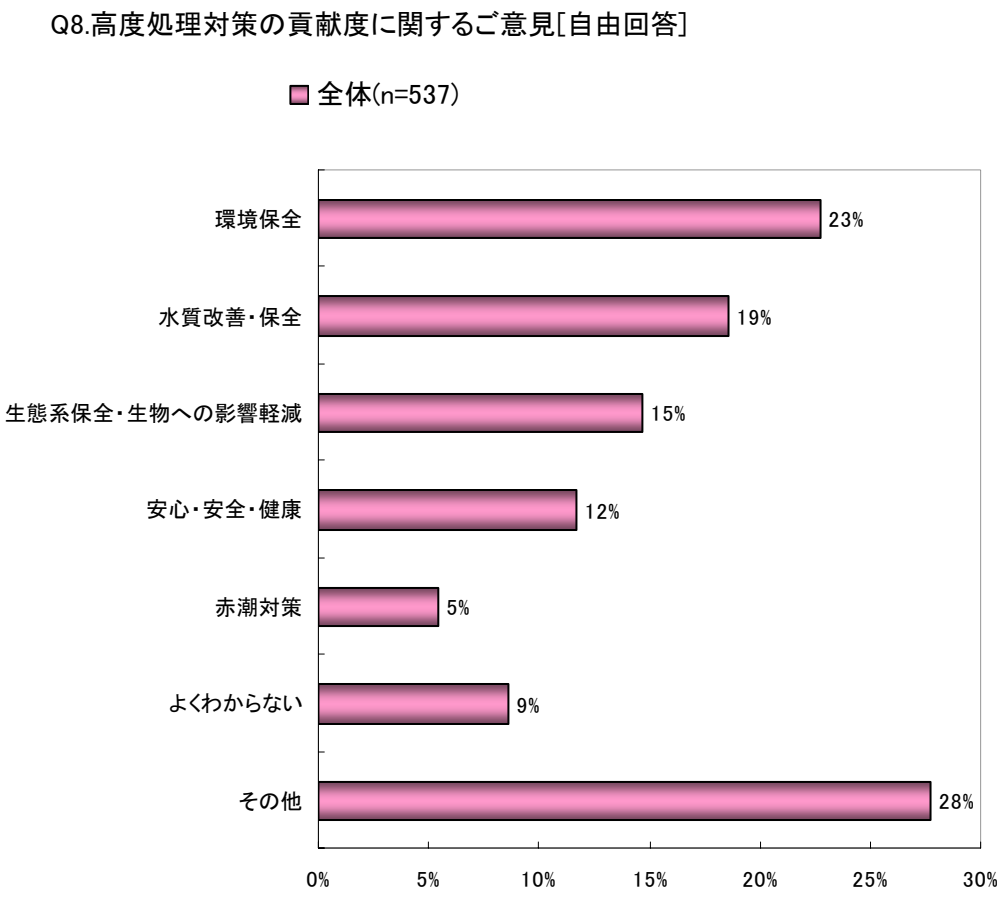


２－４．下水道の「高度処理対策」の社会的貢献に対する理由

- **下水道局が行う水質改善に対する社会的貢献として、「環境保全」の貢献を認める意見が 23%と最も高かった。**
- **次いで、「水質改善・保全」（19%）、「生態系保全・生物への影響軽減」（15%）などが貢献を認める理由として挙げられた。**
- **以下に、「高度処理対策」へのご意見・ご感想など、多数お寄せいただいたので、一部ご紹介する。**

Q8. 上記 Q7 のように思われるのはなぜですか？その理由についてご自由にお答え下さい（自由回答）。

図２-４　下水道の「高度処理対策」の社会的貢献に対する理由



※　上記は、表記のキーワードに関連した内容を回答した回答者の割合（率）である。例えば 1 位の「環境保全」は、総回答者数 537 人のうち、回答欄に文章で「環境保全」に関連する内容を記載した 122 人（23%）の割合を示している（以降の自由回答は、すべて同様の方法にて集計している）。

１.「環境保全」に関連した意見

- ◆ 地球の環境をこれ以上汚さないために、環境負荷低減は、当然の義務だと思いました。（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 環境汚染をできるだけ避けるため。（30 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 河川の汚染は現在でも大きな環境問題となっており、それらの解決を図ることは重要であると考えるから。（20 歳代男性、23 区）
- ◆ 自然環境を保持していくには当然と考えます（60 歳代女性、23 区）

２.「水質改善・保全」に関連した意見

- ◆ 海水の循環が鈍い湾内の浄化に役立つ。湾岸の汚れはまだひどい。（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 河川の浄化は直接水質の改善につながると思うからです。（40 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 東京湾などの水質を改善することは河川や海の水質を改善することに大きく影響すると思います。（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 水質環境保全に、とても大切なことだと思うから。（60 歳代男性、23 区）

３.「生態系保全・生物への影響軽減」に関連した意見

- ◆ 海の生態系を守ることはとても大切だと思われるので。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 河川や海などの水質改善によりより多くの生き物が戻ってきているように感じるから。（60 歳代男性、23 区）
- ◆ 東京湾の富栄養化を抑えることにより､魚介類豊かなきれいな海がつくられるから。（50 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 東京湾がきれいになり、またいろんな魚が住める水になれば良い（30 歳代女性、23 区）

４.「安心・安全・健康」に関連した意見

- ◆ 高度処理技術は、水の安心、安全につながっており、また、地球環境を守るためにも非常に重要なので。（40 歳代男性、23 区）
- ◆ 水は生きていくうえで必要不可欠なものなので、安全にまた環境に配慮したものがよいと思います。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 震災の影響で、特に水の大切さを感じる事が増えました。下水道の処理が、高機能な設備で整えられているのであれば安全な生活に結び付くので。（30 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 私達で悪化させてしまった自然環境は、私達の手で元に戻す責任があり、水質汚染は、人間の生命に直接関係がある重要な事柄だから。（60 歳代女性、多摩地区）

５.「赤潮対策」に関連した意見

- ◆ 富栄養化による、赤潮や青潮による漁業被害等を防ぐために重要（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 富栄養化の問題は、赤潮による海洋汚染に密接な関係があるので、漁業資源の確保という意味でも貢献度は高いと思う。（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ プランクトンの増殖による東京湾の汚染を未然に防ぐ意義がある。（40 歳代男性、23 区）
- ◆ 赤潮などが発生すると、漁業に影響があるので。（20 歳代女性、23 区）

６.「その他」に関連した意見

- ◆ 富栄養化による、赤潮や青潮による漁業被害等を防ぐために重要（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 取り組みについてあまりよく知らなかったため、貢献度を判断できないため。ただ、新規に作るのではなく、既存の施設を改造するのは良いと思いました。（20 歳代女性、23 区）
- ◆ 下水道で一番大切なのはまず洪水を防ぐことと思う。（60 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 最近のゲリラ豪雨など、一度に降る雨の量が莫大であることを考えれば、汚水排水と雨水排水の分離を推進する必要があると考えられる。雨水は地中浸透の促進やなるべく至近距離での河川などへの排水によって潤いのある水の流れを確保することになると考える。尚、これに関連して河川の改修など、治水対策が必要になることは言うまでもない。（70 歳以上男性、23 区）
- ◆ 水浄化の技術力は、日本の技術として誇れるものだから。（40 歳代男性、23 区）
- ◆ 水の再生は日本にとっても重要ですが、まだまだ水事情の悪い後進国にとっては　スゴイ貢献ができると思います（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 各家庭で毎日排出されているものであり、総量は企業を含めると膨大な数値になると思うが、　下水が整っているので、意識が生まれにくい・身近に感じられにくいこともあると思う。（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 水の富栄養化を防ぐ意味ではよい取り組みとは思う。しかし、一方その原因となる洗剤の使用制限をしてもらうような取り組みが必要だし、環境にやさしい洗剤の発売を優先するように企業や政府に働きかける必要があると思う。（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 下水等モニターに登録後施設見学をさせて頂き、下水道事業の大切さをしりました。今までどちらかというと下水より上水の方が大切だと思っていました。個々の家庭等で下水事業のことを学び合理的な家庭での下水処理をことにより、綺麗な川・海が取り戻せると思います。（40 歳代女性、23 区）

２－５．下水道局の「地球温暖化対策」の認知状況

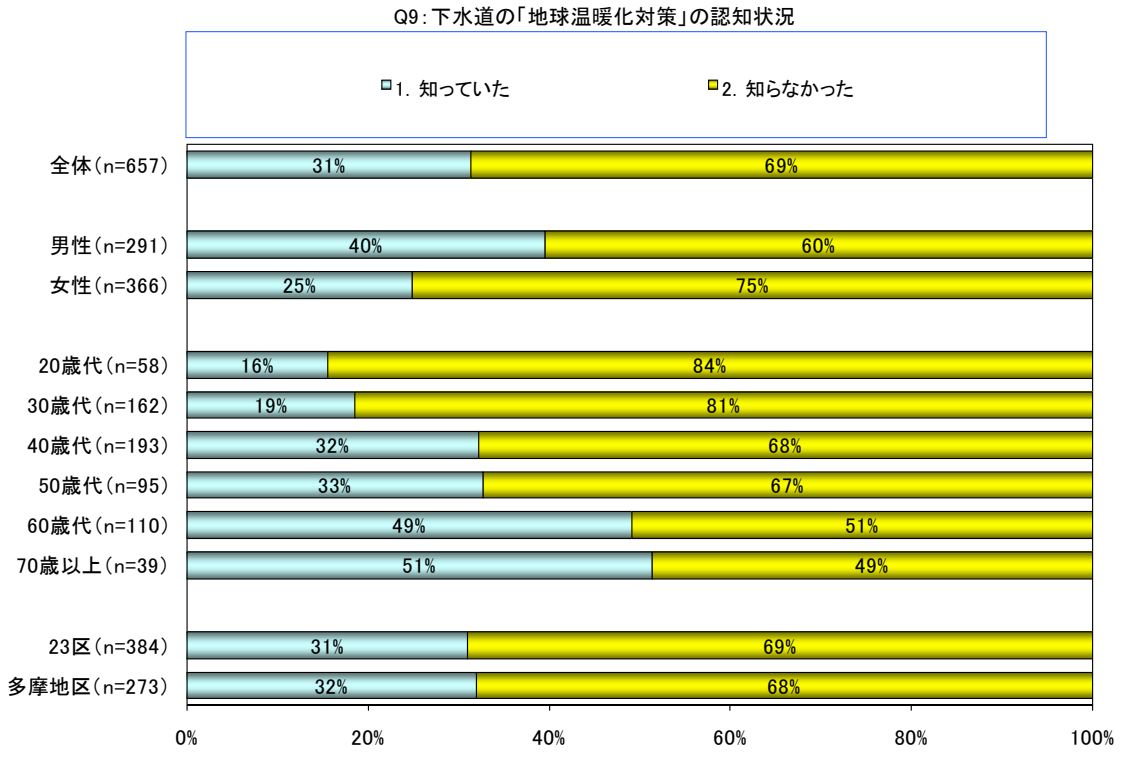
- **下水道局の「地球温暖化対策」の認知度をみる。全体では、「知らなかった」との回答が高く、69%となった。「知っていた」は 31%であった。**
- **男女別にみると、男性の方が「知っていた」との回答が高く、女性よりも 15 ポイント高くなった。**
- **年代別にみると、全体的な傾向としては、年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が高くなる。最も低いのは 20 歳代で 16%、最も高いのは 70 歳以上で 51%であった。**
- **地域別に「知っていた」との回答についてみると、23 区で 31%、多摩地区で 32%となり、多摩地区が 1 ポイント高くなった。**

Q9.　（地球温暖化対策について）

下水道局では、省エネルギー型機器導入や運転管理の工夫による消費電力量削減、また第二世代型焼却炉の導入による一酸化二窒素（N20）の排出量削減、さらに、バイオマス発電などの再生可能エネルギーの活用による温室効果ガス削減に取り組んでいます。

あなたは、このことをご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図２-５　下水道局の「地球温暖化対策」の認知状況

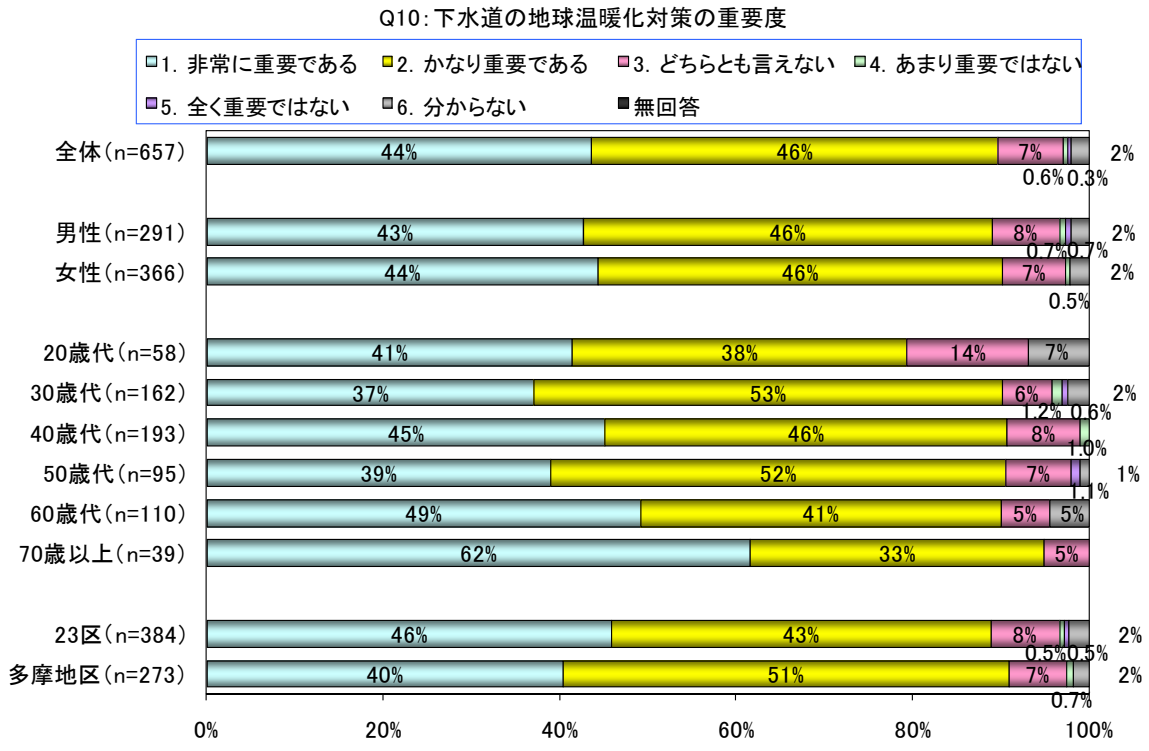


２－６．下水道局の「地球温暖化対策」の重要度

- **下水道局の「地球温暖化対策」の重要度をみる。全体では「かなり重要である」との回答が高く、46%となった。「非常に重要である」と「かなり重要である」を足した「重要である」（以降、「重要である」と表記）は 90%となった。**
- **男女別にみると、女性の方が「重要である」との回答が男性よりも 1 ポイント高くなった。**
- **年代別に「重要である」との回答についてみると、30～60 歳代では 90～91%と似た傾向を示した。一方、20 歳代では 79%となり、70 歳以上では 95%となった。**
- **地域別に「重要である」との回答についてみると、23 区で 89%、多摩地区で 91%となり、多摩地区が 2 ポイント高くなった。**

Q10. 上記 Q9 の取り組みについて、あなたはどのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図２-６　下水道局の「地球温暖化対策」の重要度

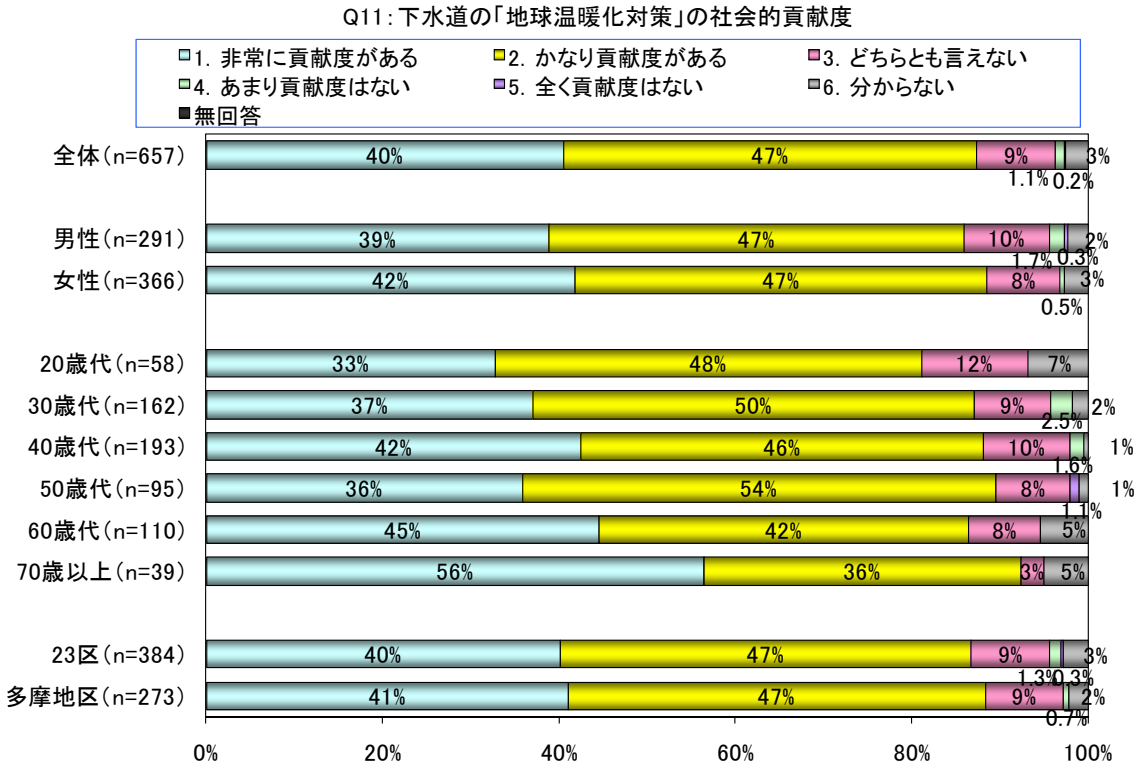


２－７．下水道局の「地球温暖化対策」の社会的貢献度

- 下水道局の「地球温暖化対策」の社会的貢献度をみる。全体では「かなり貢献度がある」との回答が高く、47%となった。「非常に貢献度がある」と「かなり貢献度がある」との回答を足した「貢献度がある」（以降、「貢献度がある」と表記）は 87%となった。
- 男女別にみると、女性の方が「貢献度がある」との回答が男性よりも 3 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「貢献度がある」との回答が増えた（60 歳代を除く）。なお 60 歳代は 87%となった。また 70 歳以上が 92%と最も高くなった。
- 地域別にみると、23 区 87%と多摩地区 88%となり、多摩地区が 1 ポイント高くなった。

Q11. 上記 Q9 の取り組みは、我々の生活にとってどのくらい社会的な貢献度が高いと思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図２-７　下水道局の「地球温暖化対策」の社会的貢献度

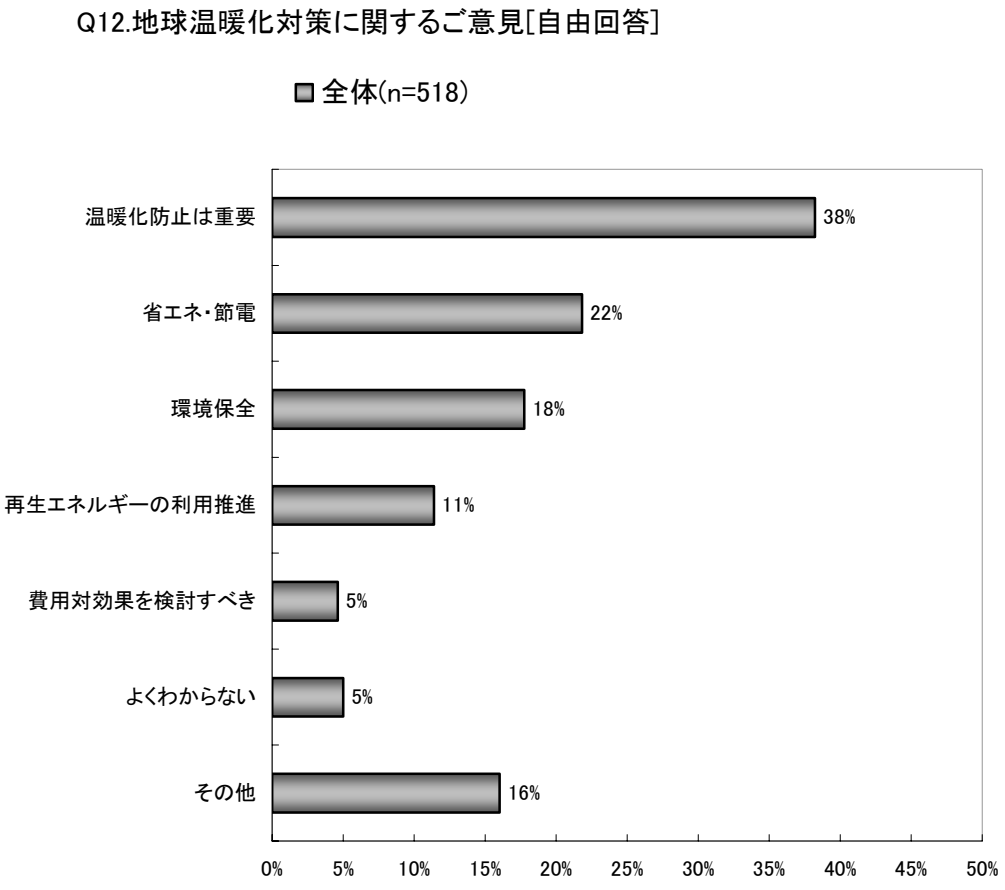


２－８．下水道局の「地球温暖化対策」の社会的貢献に対する理由

- **下水道局が行う「地球温暖化対策」に対する社会的貢献として、「温暖化防止は重要」と貢献を認める意見が 38%と最も高かった。**
- **次いで、「省エネ・節電」（22%）、「環境保全」（18%）などが貢献を認める理由として挙げられた。**
- **以下に、「地球温暖化対策」へのご意見・ご感想など、多数お寄せいただいたので、一部ご紹介する。**

Q12. 上記 Q11 のように思われるのはなぜですか？その理由についてご自由にお答え下さい（自由回答）。

図２-８　下水道局の「地球温暖化対策」の社会的貢献に対する理由



１.「温暖化防止は重要」に関連した意見

- ◆ 温室効果ガスを削減するのは、各企業、各家庭の義務だと思うから。いいことだと思う。（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 地球温暖化は世界共通の問題で取り組むことはとても良い。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 地球温暖化対策は今の時代では当たり前だから。民間企業も積極的に取り組んでいる。日本の取り組みを海外でもお手本にしてもらいたいと思う。（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 地球温暖化は深刻な問題なので、下水道局のこの取り組みはＣＯ2 削減に大きく貢献していると思います。（40 歳代男性、23 区）

２.「省エネ・節電」に関連した意見

- ◆ 大震災以降の社会情勢から消費電力量削減は意義があると思うので。（20 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 消費電力の削減は今後より重要な問題と思います（70 歳以上男性、23 区）
- ◆ 省エネは今は当たり前の時代。下水道局など大きな設備は特に重要だと思うから。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 震災もあったし、省エネルギー型の機器導入や消費電力量削減は取り組むべき大きな問題だと思うから。（30 歳代女性、23 区）

３.「環境保全」に関連した意見

- ◆ 自然環境の環境改善に大きく役立つから。（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 環境に配慮し、持続可能な社会を作ることが大事だから（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 環境保全は大切だと思うので、非常に貢献度は高い（20 歳代男性、23 区）
- ◆ 水質改善と同様、人間が安全・快適に生きていく環境を守るために、重要なことだと思う。（50 歳代女性、多摩地区）

４.「再生エネルギーの利用推進」に関連した意見

- ◆ 原発事故により、電力削減や代替エネルギーの活用の必要性がますます増したため。（50 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 原発の問題がある中、すこしでも、再生エネルギーを使うことができたら未来に有効だと思うからです。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 発電が多様化している現在。バイオマス発電は、効果があり、期待している。（60 歳代男性、23 区）
- ◆ 新エネルギーの利用が大切であると共に、資源の少ない日本ではリユースが大切だと思うので 。（30 歳代男性、23 区）

５.「費用対効果を検討すべき」に関連した意見

- ◆ 省エネルギー型機器の導入、第二世代の焼却炉の導入は大きなコストがかかると思いますが、その費用対効果についてよく分からないので。（60 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 残念ながら個々の部局の省エネや温暖化対策が費用対効果でどの程度の貢献度があるのか明確でないので 。（60 歳代男性、23 区）
- ◆ 貢献度は高いと思うが、高コストを掛けて温室効果ガス削減する必要があるかが疑問。（30 歳代男性、23 区）

◆ 設備投資に対して、効果がどの位あるのか分からないから。（40 歳代女性、23 区）

６．「その他」に関連した意見

◆ 下水道局なような大きな施設で取り組めばより大きな効果が出ると思うし、その取り組みを世間に知らせることで一人一人の環境への配慮も高まると思うから。（40 歳代女性、多摩地区）
◆ 生活環境を良くすることで健康にもなれるから（40 歳代女性、23 区）
◆ 私たちが普通に暮らすことが出来る背景にはこういった取り組みがあるということを、もっといろんな人に伝え、認識してもらう方がいいと思います。（40 歳代女性、多摩地区）

２－９．下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の認知状況

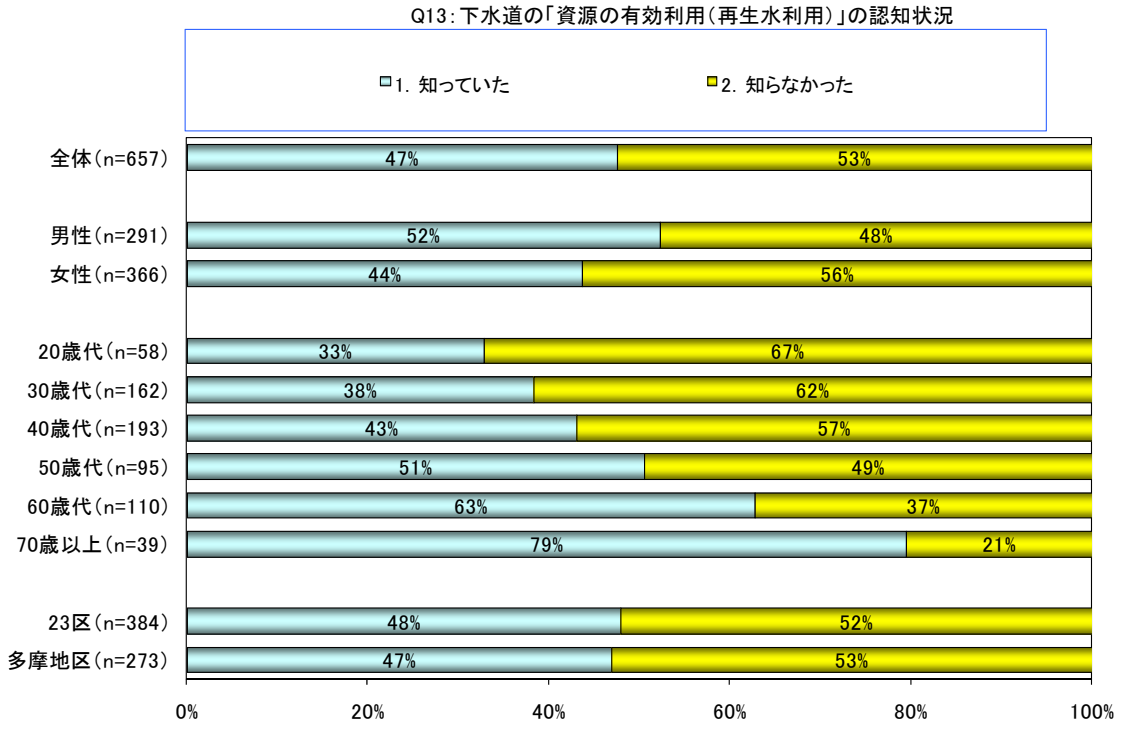
- **下水道局の「資源の有効利用（再生水利用）」の認知度をみる。全体では、「知らなかった」との回答が高く、53%となった。「知っていた」は 47%であった。**
- **男女別にみると、男性の方が「知っていた」との回答が高く、女性よりも 8 ポイント高くなった。**
- **年代別にみると、年代が上がるにつれて「知っていた」との回答が高くなる。最も低かったのは 20 歳代で 33%、最も高かったのは 70 歳以上で 79%であった。両者の差は 46 ポイントとなった。**
- **地域別に「知っていた」との回答についてみると、23 区で 48%、多摩地区で 47%となり、23 区が 1 ポイント高くなった。**

Q13.　（資源の有効利用（再生水利用）について）

下水処理水をさらにきれいにした再生水を、城南三河川（渋谷川・古川、目黒川、呑川）、玉川上水の清流復活事業やトイレ用水などに供給しています。また夏場のヒートアイランド対策の一環として、道路散布に利用するなど下水道資源の有効利用に取り組んでいます。

あなたは、このことをご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図２－９　下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の認知状況

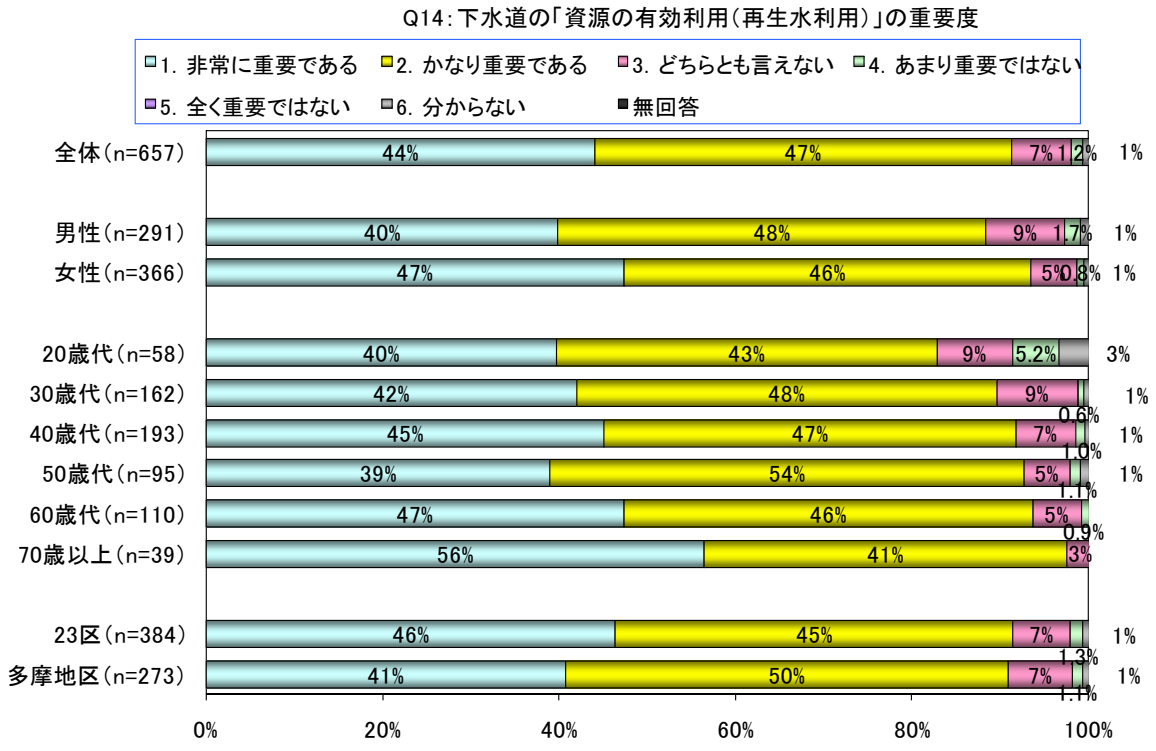


２－１０．下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の重要度

- **下水道局の「資源の有効利用（再生水利用）」の重要度をみる。全体では「かなり重要である」との回答が高く、47%となった。「非常に重要である」と「かなり重要である」を足した「重要である」（以降、「重要である）と表記）は 91%となった。**
- **男女別にみると、女性の方が「重要である」との回答が男性よりも 5 ポイント高くなった。**
- **年代別にみると、年代が上がるにつれて「重要である」との回答が増えた。最も低かったのは 20 歳代で 83%、最も高かったのは 70 歳以上で 97%であった。**
- **地域別に「重要である」との回答についてみると、23 区および多摩地区とも 91%となった。**

Q14. 上記 Q13 の取り組みについて、あなたはどのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）

図２-１０　下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の重要度

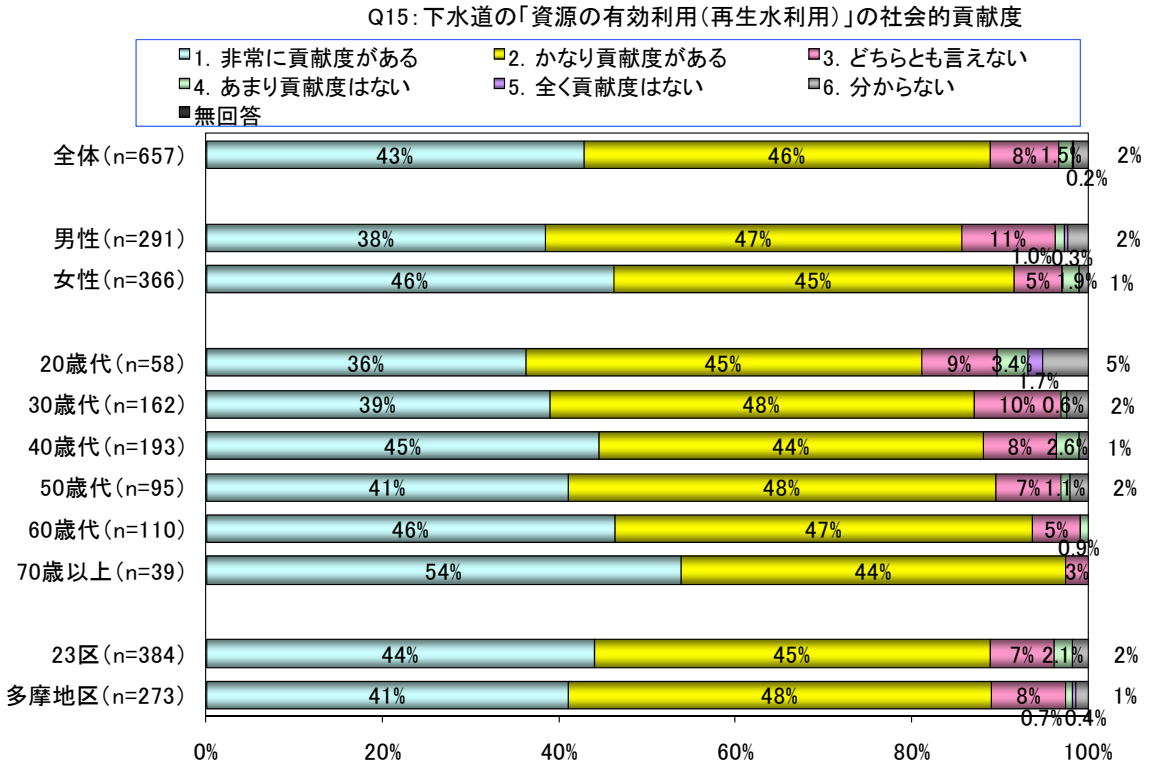


２－１１．下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の社会的貢献度

- **下水道局の「資源の有効利用（再生水利用）」の社会的貢献度をみる。全体では「かなり貢献度がある」との回答が高く、46%となった。「非常に貢献度がある」と「かなり貢献度がある」との回答を足した「貢献度がある」（以降、「貢献度がある」と表記）は 89%となった。**
- **男女別にみると、女性の方が「貢献度がある」との回答が男性よりも 6 ポイント高くなった。**
- **年代別にみると、年代が上がるにつれて「貢献度がある」との回答が増えた。最も低かったのは 20 歳代で 81%、最も高かったのは 70 歳以上で 98%であった。**
- **地域別に「貢献度がある」についてみると、23 区および多摩地区とも 89%となった。**

Q15. 上記 Q13 の取り組みは、我々の生活にとってどのくらい社会的な貢献度が高いと思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図２-１１　下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の社会的貢献度

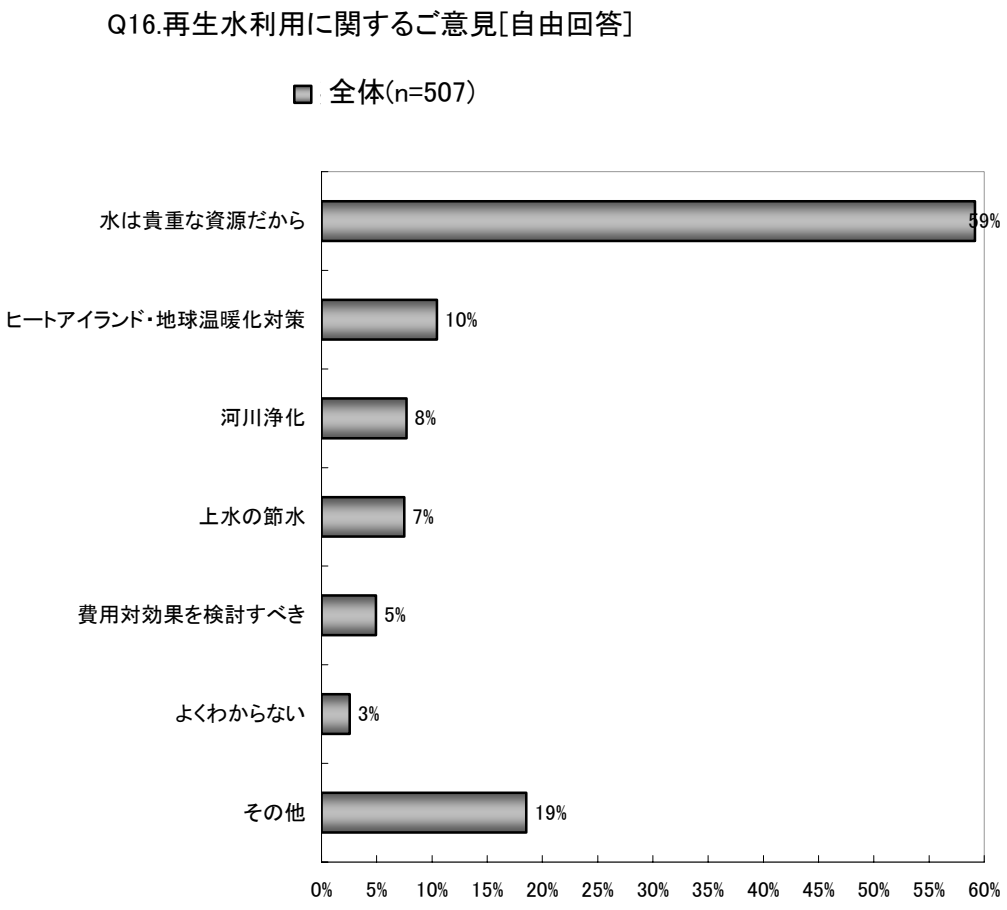


２－１２．下水道の「資源の有効利用（再生水利用）」の社会的貢献に対する理由

- **下水道局が行う資源の有効利用に対する社会的貢献として、「水は貴重な資源だから」との意見が 59%と最も高かった。**
- **次いで、「ヒートアイランド・地球温暖化防止」（10%）、「河川浄化」（8%）などが貢献を認める理由として挙げられた。**
- **以下に、「資源の有効利用（再生水利用）」へのご意見・ご感想など、多数お寄せいただいたので、一部ご紹介する。**

Q16. 上記 Q15 のように思われるのはなぜですか？その理由についてご自由にお答え下さい（自由回答）。

図２-１２　「資源の有効利用（再生水利用）」の社会的貢献に対する理由



１．「水は貴重な資源だから」に関連した意見

- ◆ 水資源は大切なので、再利用の制度はとても重要だと思います。（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 貴重な資源である水の有効活用は望ましいこと（20 歳代男性、23 区）
- ◆ 再生水といってもかなりキレイな水なので、もっと使える範囲を広げていって欲しい（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ トイレ用水は今は水道水に組み込まれているので再生水を利用できたらありがたいが、一般家庭に給水予定があるのでしょうか。（60 歳代女性、多摩地区）

２．「ヒートアイランド・地球温暖化対策」に関連した意見

- ◆ 地球温暖化対策に効果があると思われる。（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 道路散布のことはニュース等で知っていましたが､どんな水なのかわからなかったので､いい試みだと思います。（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 取り組みについてはまったく知りませんでしたが、温暖化の為にも有効だと思います。多摩地域でも実施しているのでしょうか？（20 歳代女性、多摩地区）
- ◆ ヒートアイランドは真剣に考え、地球温暖化をなくしていけるようしていかなければならないと思っているので、用水の有効活用は大切だと思います。（40 歳代女性、23 区）

３．「河川浄化」に関連した意見

- ◆ 目黒川、呑川は、夏場とか結構においがする、きれにな水を注入することにより、水が浄化されるので、期待しています。（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 水が少ないことによって水質が悪くなっている河川の環境が、再生水によって良くなることは、よい活用法だと思います。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 玉川上水は昔と比べて格段にきれいになったと思う。今後もこのような取り組みが重要だと思うから。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 渋谷川沿いに住んでいるが、以前は雨が降らないと水が流れず悪臭が発生していた。清流とは言えないがいつも水が流れているのは良いことだと思う。（40 歳代男性、23 区）

４．「上水の節水」に関連した意見

- ◆ 再利用により、上水道の使用が削減につながるから。（40 歳代男性、23 区）
- ◆ 打ち水やトイレの水などは、飲料用水でなくてもよいから（30 歳代女性、23 区)原
- ◆ 水不足の時に効果が発揮できると思います。（50 歳代男性、多摩地区）
- ◆ トイレ用水に上水道を使用するのは、資源の無駄使いです。コストの問題が解決出来れば再生水で充分です。（70 歳以上男性、23 区）

５．「費用対効果を検討すべき」に関連した意見

- ◆ 再利用は好ましいが、費用対効果はどうなのでしょうか。（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 再処理水を有効に使うのはいいことだが、コストがどうなのか分からないから。（40 歳代男性、23 区
- ◆ 高度処理をするにはそれなりに研究、建設、維持費用がかかるとは思いますが、必要不可欠だと思います。素人が恐縮ですが、費用対効果を今まで以上に明確にし、都民に分かりやすいようにしていただければ、いろいろな意味で理解していただけるのではないかと思います。今後の研究､開発を進めていただけることをお願います。（30 歳代男性、

多摩地区）

- ◆ 再生にかかる費用、エネルギー、再生により得られるメリット、などのトータルバランスで判断する必要がある。（30 歳代女性、23 区）

６．「その他」に関連した意見

- ◆ まわりまわってわれわれの下水処理代の削減になるため（20 歳代女性、多摩地区）
- ◆ どこかに水を垂れ流している、というイメージが強いため。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 再生水としての利用は大切だが、トイレの排水はいいとしても道路の散水に関しては疑問を感じる。無知なせいかもしれないが散水では対処するだけで原因の追及にはならない。（60 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 日本は、比較的水に恵まれた国ですが、再生水利用により、水道代が安くなれば嬉しいです。また、再生水をきれいにする技術は、世界中に多くある水不足の国々の助けになると思います。（60 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 東京の水源は充分余裕があるのでは。（70 歳以上男性、多摩地区）

３．家庭での浸水への対策について

３－１．ご家庭での浸水対策について

- 家庭での浸水対策をみる。全体では回答が高くなった順に「この中でやっているものはない」38%、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」35%、「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」35%となった。なお、浸水対策の選択肢のうち、「自宅に「土のう」や「止水板」を用意している」は 1%と低い。
- 男女別にみると、男性は全体と同じ順番となった。女性では回答が高くなった順に「この中でやっているものはない」37%、「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」36%、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」34%となった。
- 年代別にみると、「この中でやっているものはない」との回答は年代が上がるにつれて低くなった。なお、20 歳代で 55%、70 歳以上では 23%となった。何らかの浸水対策をとっている人が高い 70 歳以上の回答内訳をみると、「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」41%、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」38%、「「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」38%となった。
- 地域別にみると、１．～４．までの各浸水対策において多摩地区の方が 23 区よりも回答が高くなった。

Q17.（浸水への備えについて）

「浸水への備え」についてお伺いします。次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢の中から該当するものをいくつでもお選びください。（単一回答）。

図３－１　ご家庭での浸水対策

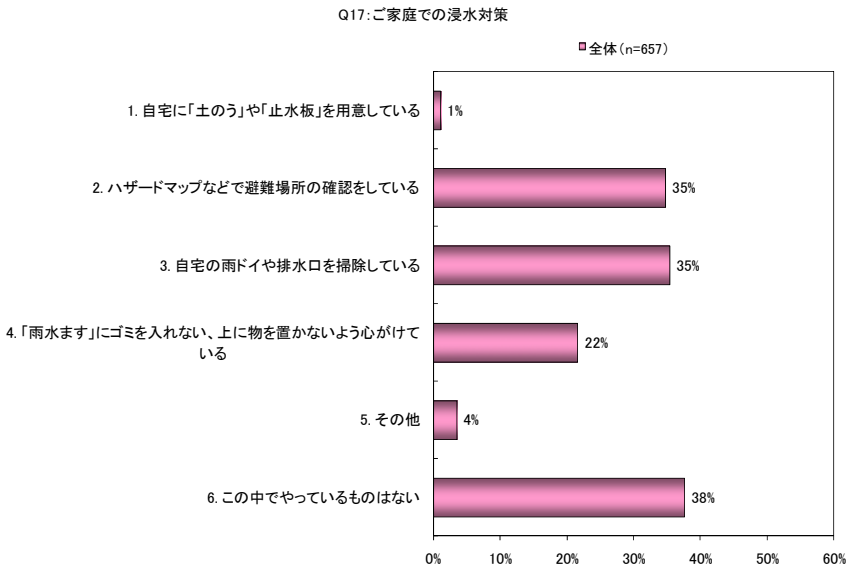


図３-２　ご家庭での男女別浸水対策

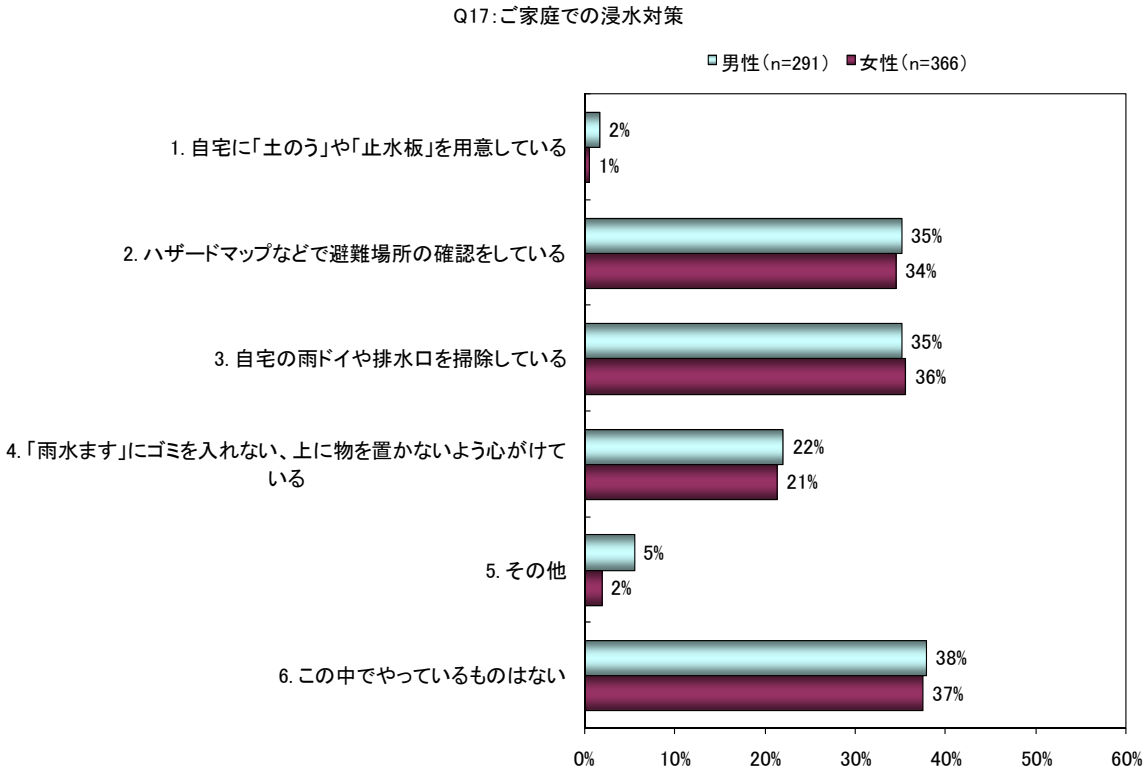


図３-３　ご家庭での地域別浸水対策

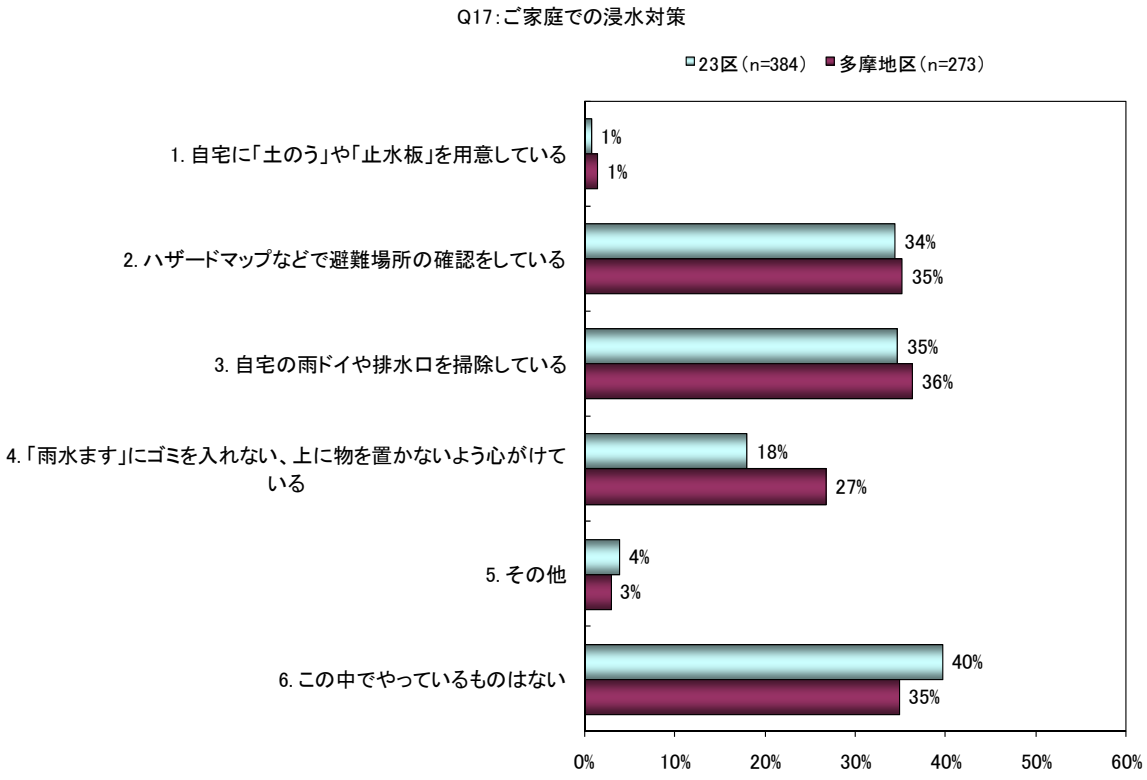
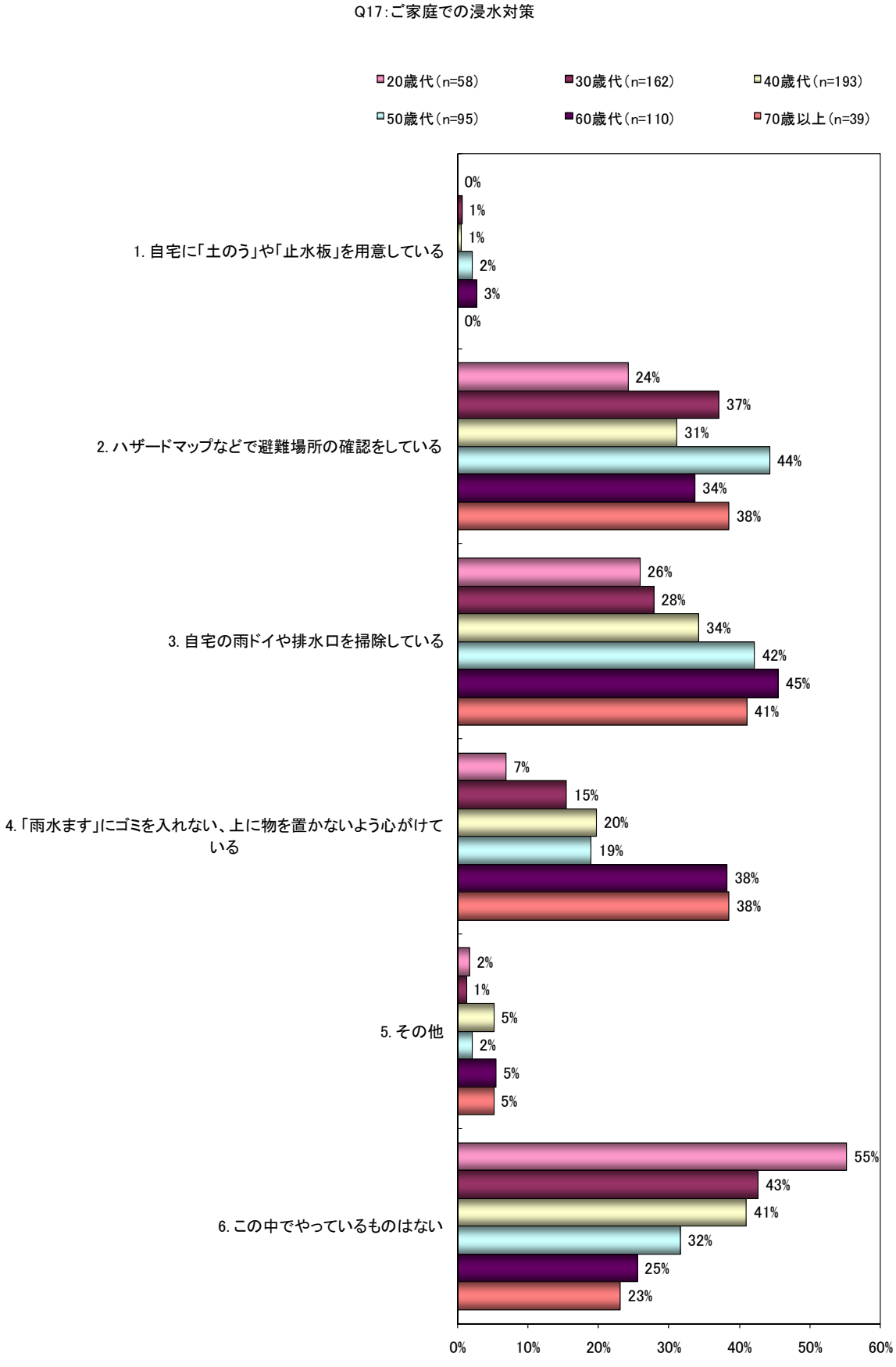


図３-４　ご家庭での年代別浸水対策

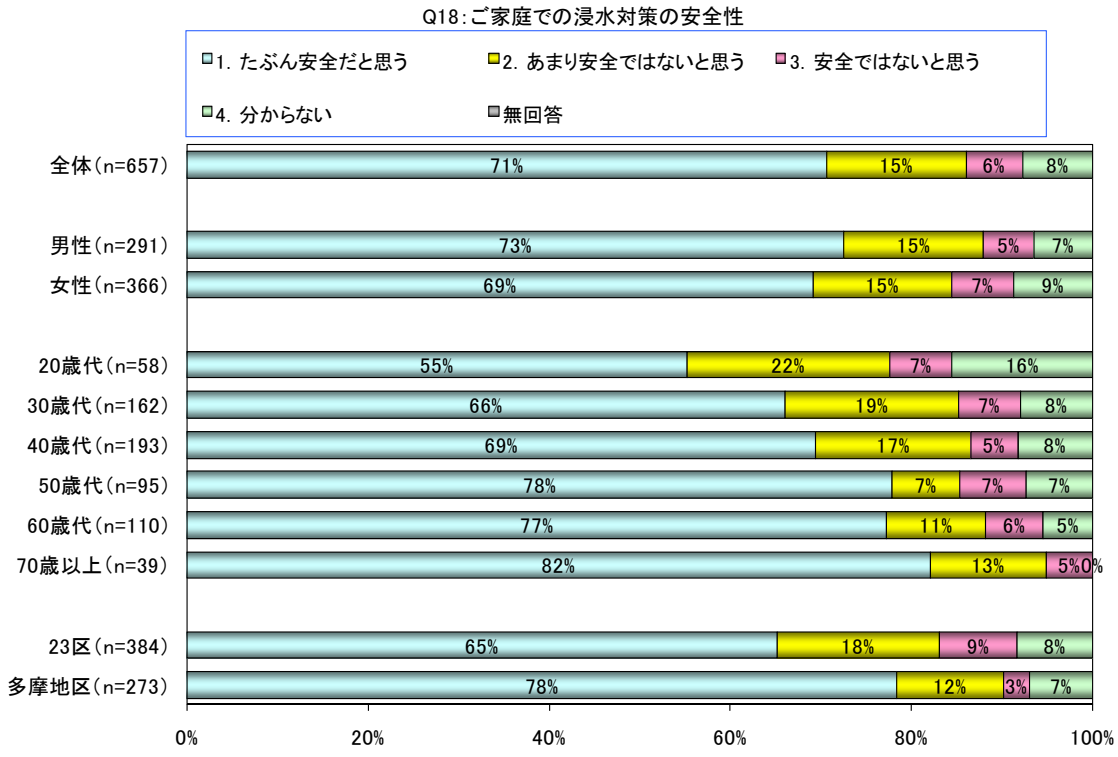


３－２．ご家庭での浸水対策の安全性

- **回答者の家庭での浸水対策の安全性をみる。全体では「たぶん安全だと思う」との回答が高く、71%となった。**
- **男女別にみると、男性の方が「たぶん安全だと思う」との回答が女性よりも 4 ポイント高くなった。**
- **年代別にみると、全体的には年代が上がるにつれて「たぶん安全だと思う」の回答が高くなった（60 歳代を除く）。60 歳代は 77%となった。最も回答が高くなったのは 70 歳以上が 82%であった。**
- **地域別にみると、「たぶん安全だと思う」は 23 区 65%、多摩地区 78%となり、多摩地区 13 ポイント高くなった。**

Q18. あなたのお宅は、大雨による浸水に対して安全だと思いますか。以下の選択肢の中から該当するものを一つだけお選びください。（単一回答）。

図３-５　ご家庭での浸水対策の安全性



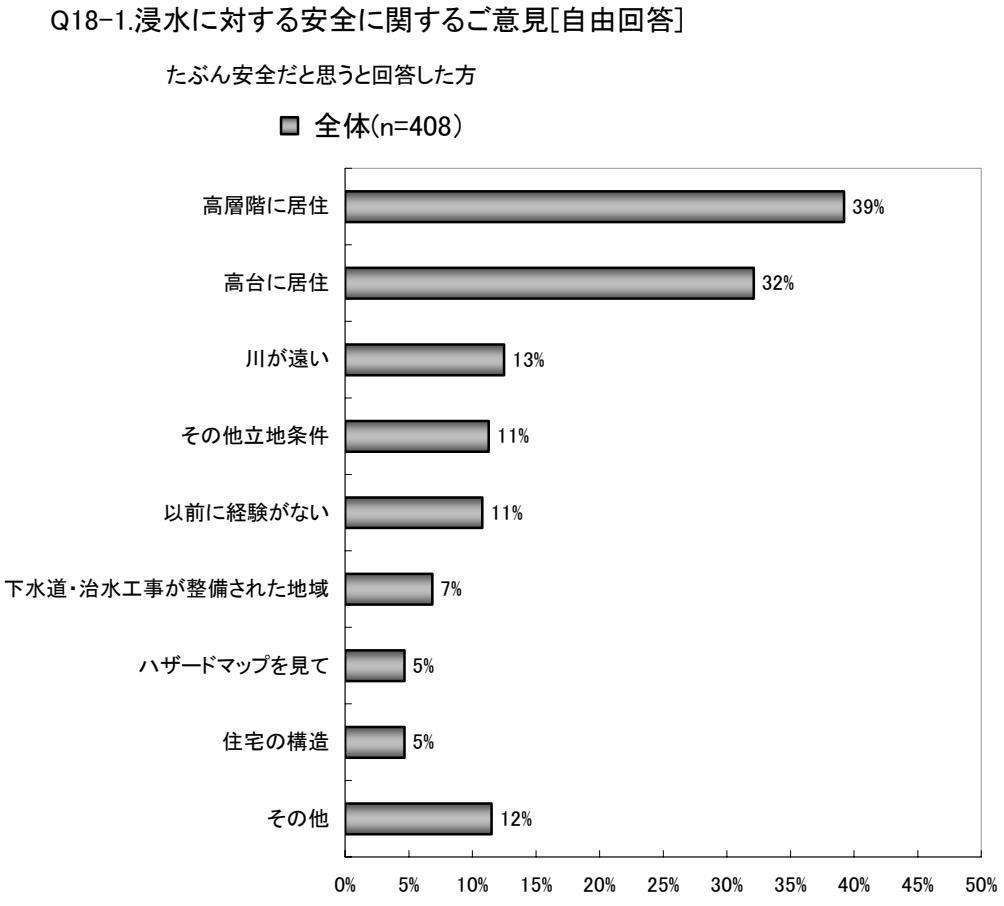
３－３．ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由

- 「たぶん安全だと思う」と回答した方では、「高層階に居住」を理由とする方が 39%と最も高かった。
- 「あまり安全ではないと思う」、「安全ではないと思う」と回答した方では、「川が近い」（33%）、「低地・崖地に居住」（23%）などが理由として挙げられた。
- 以下に、「浸水対策の安全性」へのご意見・ご感想など、多数お寄せいただいたので、一部ご紹介する。

Q18-1.　上記 Q18.　で大雨による浸水に対する安全について、あなたがそのようにお答えになった理由を教えてください（自由回答）。

図３-６-１　ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由

（たぶん安全だと思うと回答した方）



１．「高層階に居住」に関連した意見

- ◆ マンションの 9F だから。（40 歳代男性、23 区）
- ◆ 自宅はマンションの 6 階にあるため。（30 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 住居が６階なので基本的には心配していないが、施設全体としては対応がなされていないようだ。（50 歳代男性、多摩地区）
- ◆ マンションの五階に住んでいるから。（60 歳代女性、23 区）ト

２．「高台に居住」に関連した意見

- ◆ 家がかなり高台にあるので。（60 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 我が家の周辺にある河川の水位に対して、20mほど高い大地に位置していること、および付近はほぼ平坦で、道路の凹みには位置していないため。（70 歳以上男性、23 区）
- ◆ 高台に家があるので、水が来ない地域だから。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 高台にあるので、水害があるとは思えない。（40 歳代男性、23 区）

３．「川が遠い」に関連した意見

- ◆ 近くに川がなく、低地でもないため。（50 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 川が近くにないのと地盤が安全だと聞いているため。（30 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 近くに氾濫するような川がないから。（60 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 近くに氾濫するような水場が無く、過去にも水害が無いから。（20 歳代男性、多摩地区）

４．「その他の立地条件」に関連した意見

- ◆ 排水は極めて良いので心配はしていない。（70 歳以上男性、多摩地区）
- ◆ 他の家よりも高い土地に建っているから。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 水はけがいいから。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 斜面に立地しているため 。(20 歳代男性、23 区）

５．「以前に経験がない」に関連した意見

- ◆ 周辺で浸水被害を聞いたことがない。（50 歳代男性、23 区）
- ◆ ２～３０年ぐらい洪水浸水にあっていない。（70 歳以上女性、23 区）
- ◆ 今後の雨量にもよるが、今まで被害はなし。（60 歳代女性、23 区）
- ◆ 近くに氾濫するような水場が無く、過去にも水害が無いから。（20 歳代男性、多摩地区）

６．「下水道・治水工事が整備された地域」に関連した意見

- ◆ 地理的環境が高台で排水溝も我が家の前の道路にはたくさんあるからです。（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 以前は下水が吐けず大雨だと道路が冠水して床下浸水していたが、大口径の下水管の埋設後は全く道路冠水をしていないので現在は安心だと思っている。（50 歳代男性、23 区）
- ◆ 以前（４０年前）は石神井川が氾濫したこともあったが、現在は改良工事が完了している。（70 歳以上男性、23 区）
- ◆ 近くに氾濫するような水場が無く、過去にも水害が無いから。（20 歳代男性、多摩地区）

７.「ハザードマップを見て」に関連した意見

- ◆ ハザードマップの位置確認で、安全と理解している。（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 浸水のハザードマップで確認している為。湾岸の埋め立て地に居住しており、河川の氾濫の影響が無い為。（30 歳代男性、23 区）
- ◆ 地区開発で元々周辺一帯が周りの土地より高く作られており、ハザードマップでは避難地区先として指定された地域だから。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ ハザードマップでは大丈夫な場所だからです。表記以上の雨が降ったら、不安になりますが。（20 歳代女性、23 区）

８.「住宅の構造」に関連した意見

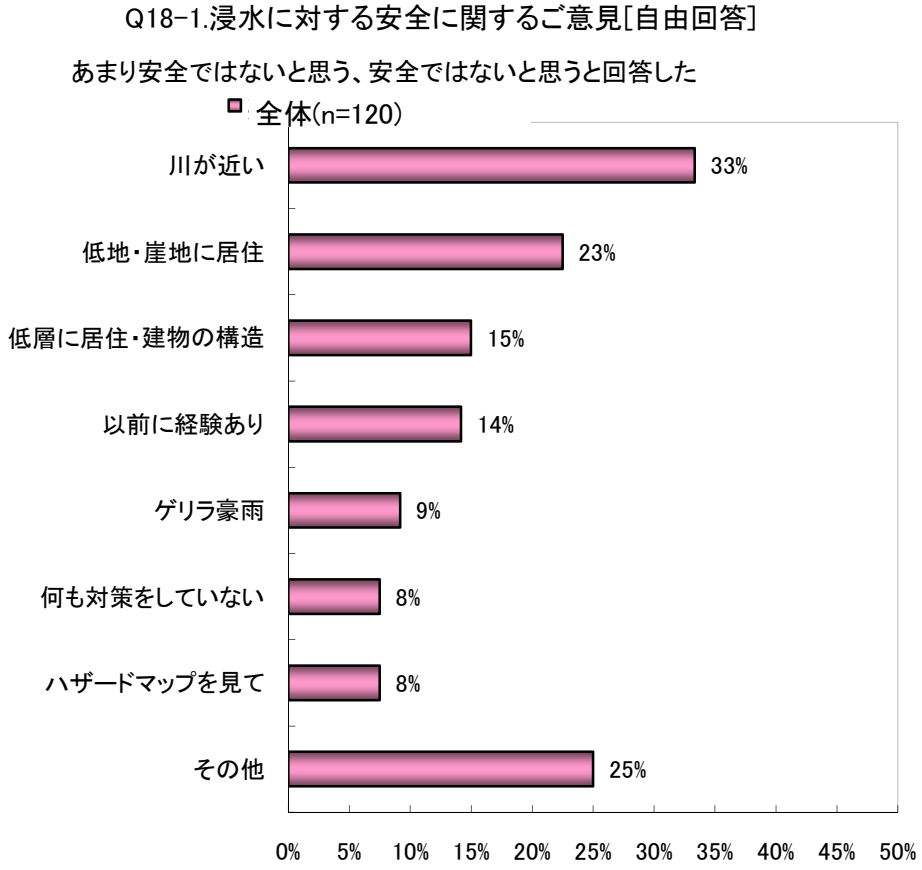
- ◆ 敷地内に直径２ｍ深さ４ｍほどの雨水枡を設けている。浸透枡もある。（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 低地ではなく、雨水ますも設置しているから。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 小金井市に住んでいますが、小金井市の住宅には雨水ますが設置されている事が多く、浸水被害に対処できていると感じるので。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 雨水マスが２つある高台にある。（30 歳代女性、多摩地区）

９.「その他」に関連した意見

- ◆ なんとなく（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ マンション管理が徹底しているから（50 歳代女性、多摩地区）
- ◆ なんとなく（40 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 地域的な差が大きい浸水問題。[家は安全だと]思っている意識を変えていかなくてはと思います。（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 東京都の政策に信頼をしているので。（40 歳代男性、23 区）

図３-６-２　ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由

（あまり安全ではないと思う、安全ではないと思うと回答した方）



１．「川が近い」に関連した意見

- ◆ 荒川が近く、増水する可能性があると聞いた。（30 歳代男性、23 区）
- ◆ 川が近くにあり堤防が決壊すれば浸水すると思うから。（60 歳代女性、23 区）
- ◆ 近くの河川は大水が出ても大丈夫なように貯水池が設けられていますが、我家は河川から近いため。（50 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 近くに川がありＯメートル地帯にあるため。（40 歳代女性、23 区）

２．「低地・崖地に居住」に関連した意見

- ◆ 土地が低いと聞いているので。（20 歳代女性、23 区）
- ◆ 庭が周りの家より低地で、水がよく溜まり、排出する場所がなく、最近のゲリラ豪雨の勢いをうけると心配になってくる。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 坂の下にあり、大雨で下水がよく溢れるので、土嚢などを用意した方がよいかと。（30 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 地盤が低く、これ以上の対策はできない。（60 歳代男性、23 区）

３．「低層階に居住・住宅の構造」に関連した意見

- ◆ マンションの半地下になっている部分やもともと土地も低いところに住んでいるので、

豪雨のときの浸水の被害は免れないと考えている。（20 歳代女性、23 区）

- ◆ 歩道と同じ高さに家の玄関がある為、大雨が降った場合浸水は確実になる。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 地下駐車場がある。（30 歳代男性、23 区）
- ◆ マンション 1 階に住んでおり、大雨の際にマンション全体のエントランスが水浸しになったことがあります。住まいはエントランスから離れていますが、部屋近くの雨水ますが許容量を超えそうになったこともあったので。（40 歳代女性、多摩地区）

４.「以前に経験あり」に関連した意見

- ◆ 数年前大雨の時、自宅の前を通っている下水道の排水マスにビニールが排水部分をふさぎ排水できなくなり家に浸水してきたことあり。大変だった。以来、排水枡の掃除に心掛けているが近くの乞田川が氾濫する事態になれば非常に危険。（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 目の前に隅田川があり、強雨の時は近くで膝下までの水を経験している。今後、下水能力を超える雨の時は、洪水被害を受けることが予想されるので。（50 歳代女性、23 区）
- ◆ 昨年のゲリラ豪雨で横の道路が膝下まで浸水し近所では被害があったので浸水対策は身近に感じます。今まで畑や林であった場所に住宅が増えてくのに、道路横の雨水ますや下水道の太さは変わらないと思われ、どうしても浸水対策は後回しになっていると感じます。（30 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 以前荒川が氾濫し、浸水したことがある。ゲリラ豪雨の不安を感じる。（60 歳代男性、23 区）

５.「ゲリラ豪雨」に関連した意見

- ◆ 最近のゲリラ豪雨は、都の下水道処理能力を超えているというニュースを見ました。首都機能を守るために国や都は税金で整備をすべきだと思います。（20 歳代女性、23 区）
- ◆ 我が家は坂の下に建っており、大雨が降ると前の道路が川のようになってしまいます。下水道が随分整備されましたが、最近のゲリラ豪雨には対応できないと思うので、大雨が降ることがとても心配です。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 住んでいる土地が高いから、それほど危機感はないが降る雨量が最近の異常気象からは想像がつかない。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 最近のゲリラ豪雨等の時、近くの道路が冠水したり、川の水かさが増し、流れが激しくなるのを見て、不安を感じました。（40 歳代女性、多摩地区）

６.「何も対策をしていない」に関連した意見

- ◆ 何も対策をしていない。（40 歳代男性、23 区）
- ◆ 対策はほとんどしていないので、あまり安全ではないと思う。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 特別な対策はとっていないからです。（40 歳代男性、23 区）
- ◆ 浸水への備えをしっかりとやっていないからです。（20 歳代男性、多摩地区）

７.「ハザードマップを見て」に関連した意見

- ◆ 自宅がハザードマップの浸水域境界に位置しています。（60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 居住地のハザードマップを見たから（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 役所の水害マップで危険地域に入っているから（40 歳代男性、23 区）

◆ ハザードマップをみると、大雨の時に浸水する地域だから。（30 歳代女性、23 区）

８．「その他」に関連した意見

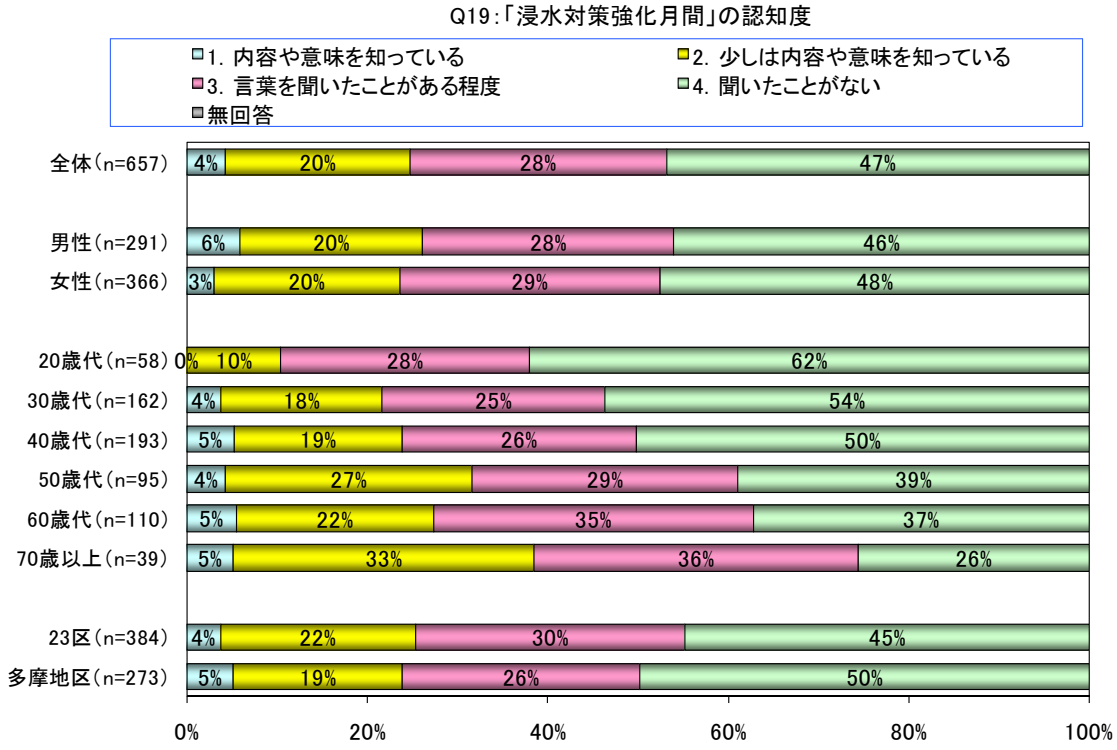
◆ 自然の力は怖いので予想もつきません。（40 歳代女性、23 区）
◆ なんとなく。。（30 歳代女性、多摩地区）
◆ 新築マンションなので（30 歳代女性、23 区）
◆ やれることはまだまだあると思うからです。（40 歳代男性、23 区）
◆ 自宅のある建物が浸水しなくても、近隣の住宅が浸水してしまうことで、ライフラインに支障をきたすことは十分に考えられるから。（40 歳代女性、多摩地区）

３－４．「浸水対策強化月間」の認知度

- 「浸水対策強化月間」の認知度をみる。全体では回答が高くなった順に、「聞いたことがない」47%、「言葉を聞いたことがある程度」28%、「少しは内容や意味を知っている」20%、「内容や意味を知っている」4%となった。
- 男女別にみると、女性の方が「聞いたことがない」との回答が男性よりも 2 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、年代が上がるに従って「聞いたことがない」との回答が低くなる。最も高くなったのは 20 歳代 62%、最も低くなったのは 70 歳以上 26%となり、両者の間に 36 ポイントの差が生じた。
- 地域別にみると、「聞いたことがない」は 23 区 45%、多摩地区 50%となり、多摩地区 5 ポイント高くなった。

Q19. 東京都下水道局では、毎年 6 月に浸水対策事業や下水道施設の役割、「浸水への備え」のお願いをＰＲする「浸水対策強化月間」に取り組んでいます。あなたはこの事について、どのくらいご存じですか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図３－７　「浸水対策強化月間」の認知度

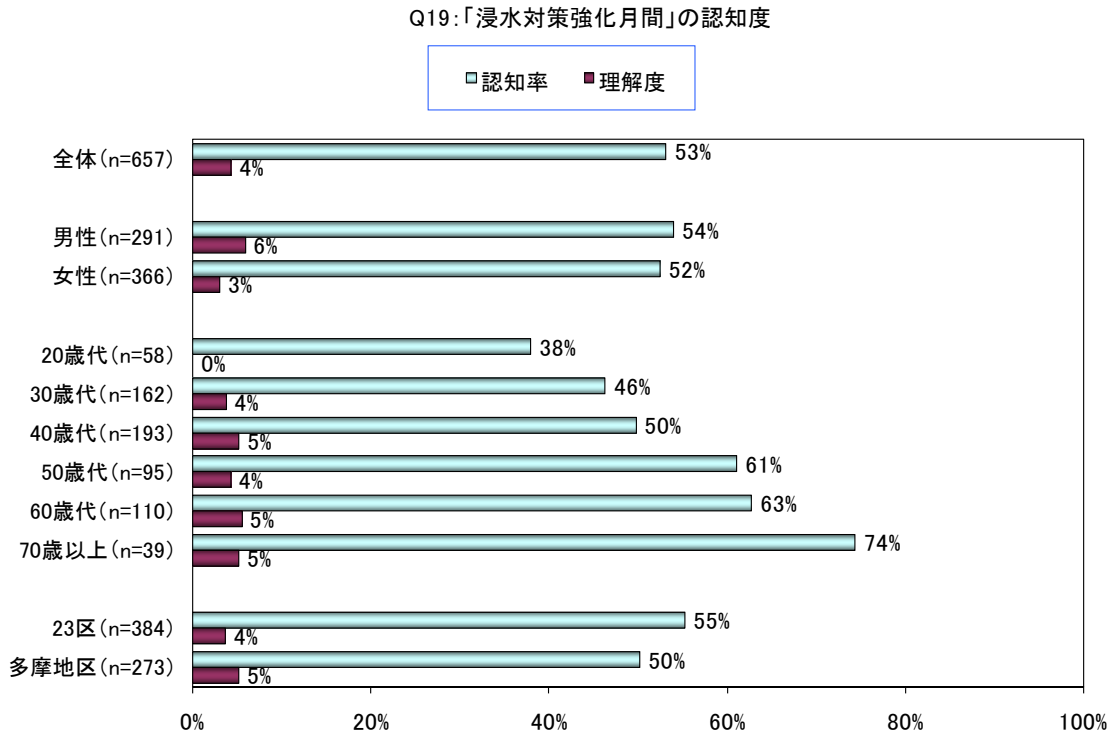


３－５．「浸水対策強化月間」の認知率・理解度

- 「浸水対策強化月間」の認知率・理解度をみる。全体では、認知率は 52%、理解度は 4%となった。
- 男女別にみると、認知率は男性が女性より 2 ポイント高くなった。理解度も男性が女性よりも 3 ポイント高くなった。
- 地域別にみると、認知率は 23 区が多摩地区より 5 ポイント高くなった。理解度は多摩地区が 23 区よりも 1 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、年代が上がるに従い認知率が高くなった。最も低い 20 歳代は 38%、最も高い 70 歳以上は 74%となった。理解度は 20 歳代が 0%と他の年代よりも低くなった。

Q19. 東京都下水道局では、毎年 6 月に浸水対策事業や下水道施設の役割、「浸水への備え」のお願いをＰＲする「浸水対策強化月間」に取り組んでいます。あなたはこの事について、どのくらいご存じですか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい。（単一回答）。

図３-８　「浸水対策強化月間」の認知度



※認知率は、選択肢「1.内容や意味を知っている」、「2.少しは内容や意味を知っている」、「3.言葉を聞いたことがある程度」のいずれかの選択者の割合とした。
※理解度は、選択肢「1.内容や意味を知っている」の選択者の割合とした。

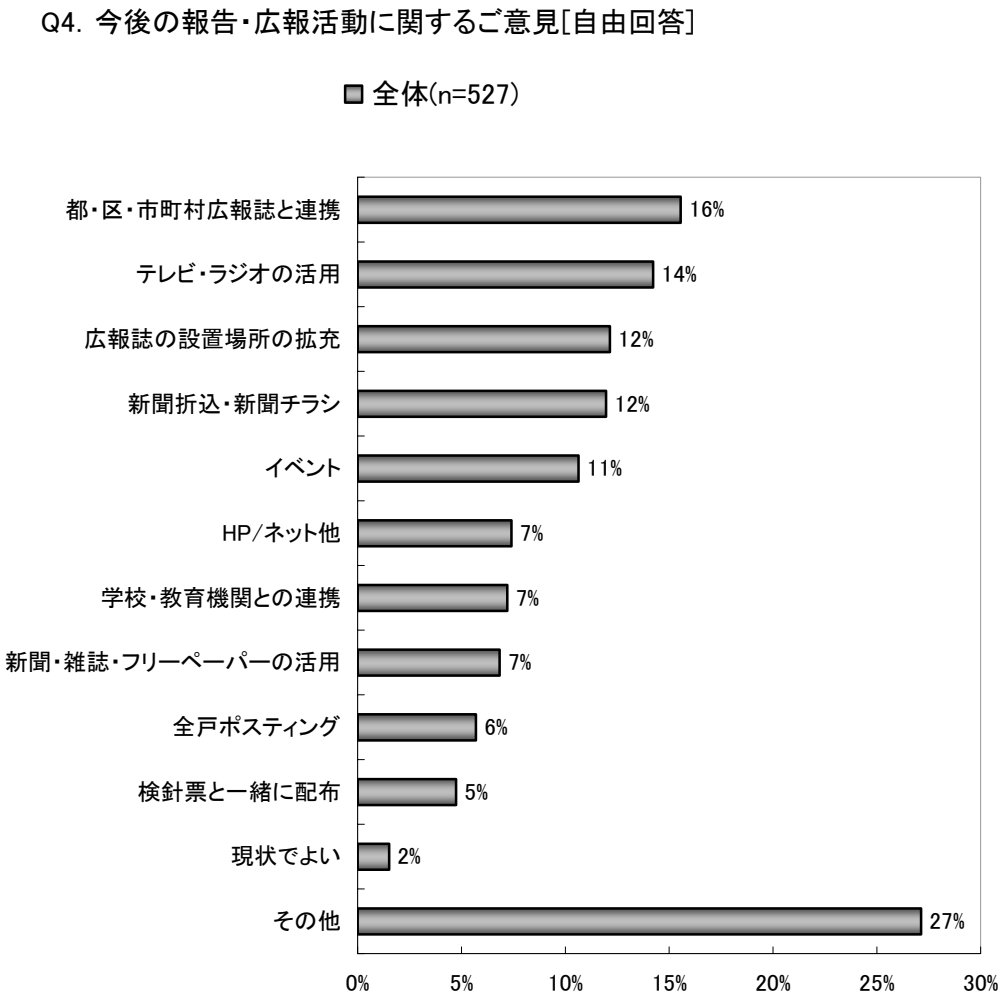
４．自由意見

４－１．「下水道局の報告・広報事業」を多くの人に知ってもらうための取り組み

- **「下水道局の報告・広報事業」へのご意見としては、「都・区・市町村広報誌と連携」とするご意見が 16%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオの活用」についての内容が14%と高かった。**
- **その他、「下水道局の報告・広報事業」へのご意見・ご感想など、多数お寄せいただいたので、一部ご紹介する。**

Q4. あなたは東京都下水道局が「下水道の情報を伝える活動（報告、広報活動）」について、今後どのような取り組み（広報誌の作成を含む）をすると、より多くの人に知ってもらえると思いますか？ご自由にご記入ください（自由回答）。

図４－１　「下水道局の報告・広報事業」を多くの人に知ってもらうための取り組み



１.「都・区・市町村広報誌と連携」に関連した意見

- ◆ 東京都の広報誌だけでなく、各区報などでも紙面を借りて広報する。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 東京都の広報などに専用のページを設ける。また、親子向けの施設見学会などの告知を広くし、認知を広げる。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 都や市の広報誌に、もっと積極的に記事を掲載すると共に、パンフレット等も同時に配布し、下水道に対する理解を深めてもらう必要がある。（70 歳以上男性、多摩地区）
- ◆ 東京都広報に毎回、下水道局のコーナーを作り、詳細の広報につなげれば良いのではないですか。（20 歳代女性、23 区）

２.「テレビ・ラジオの活用」に関連した意見

- ◆ ＴＶ番組やＴＶＣＭなどで広く認知させればよいと思います 。(40 歳代男性、多摩地区)
- ◆ ＮＨＫのニュースやクローズアップ現代等の報道番組など、テレビ番組で取材してもらう。特集を組んでもらう。同様に新聞社の家庭欄のような紙面に特集を組んでもらい取材してもらう。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 第一に、テレビの東京都の行政やサービス等を紹介するスポット番組で下水道に関する情報等を（今まで以上に）取り上げる。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ テレビ、ラジオの活用 。(70 歳以上男性、多摩地区

３.「広報誌の設置場所の拡充」に関連した意見

- ◆ 書店に広報誌を置かせてもらう。（20 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 駅、コンビニ、病院、図書館、大型スーパー、美術館、科学技術館、がすってな一に、未来館、学校に置く。（40 歳代男性、23 区）
- ◆ 駅　等もよいけれども商業施設に置くと勤めていないお母さん、年配の人も見る機会が多くなると思う。（50 歳代女性、多摩地区）
- ◆ いろいろな広報誌を作ることも大事なことだが、都の施設だけでなく区立や市立などの公共施設､スーパーマーケットやショッピングセンターなどにも置いてもらうなどして、より多くの人の目に触れる機会を増やすことも検討すべきだと思う。（40 歳代女性、23 区）

４.「新聞折込・新聞チラシ」に関連した意見

- ◆ 新聞の折込等にして自然に目にふれる形であればより多くの人に知ってもらえると思います。（70 歳以上女性、多摩地区）
- ◆ 私は新聞の折込広告ばかりを見ておりましたので、残念ながら下水道局のホームページを見ようとしておりませんでした。またインターネットを使わない方もいらっしゃるので新聞の折込は効果的かと思います。（60 歳代女性、23 区）
- ◆ 折り込みチラシ 。(60 歳代男性、23 区)
- ◆ 折こみ広告に入っていると、多くの人の目につくと思います。(20 歳代女性、多摩地区)

５.「イベント」に関連した意見

- ◆ 下水道事業を行っている現場の見学会を出来る限り多く実施する。（70 歳以上男性、多摩地区）
- ◆ 地域のイベントやお祭りに参加したり、飲食店やショップなどにも広報誌やポスターなど、おけば印象に残るかと思います。（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 祝祭日を利用してのイベントなどを企画してより多くの人々に認識してもらえば良いと思う。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 子供が来るようなイベントに出展して、冊子を配れば、たくさんのママやパパ、じいじ、ばあばに配れると思います。（30 歳代女性、23 区）

６.「HP/ネット他」に関連した意見

- ◆ 都のＨＰやお知らせなどに、バナー広告をどんどん出し、興味を持ってもらう。こんなことをやっているというＰＲをこまめに出す。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ Facebook, Twitter などのソーシャルメディアの積極活用。ただ始めるだけでなく積極的な利用をすることで、より多くの方に伝えられるのではないでしょうか。（30 歳代男性、多摩地区）
- ◆ インターネット時代への対応として、ネットメディアをさらに活用すること。（20 歳代男性、23 区）
- ◆ ホームページ以外にもブログなどを通し、東京都下水道局の取組をより早く判り易く発信したらどうか。放射能汚染や集中豪雨など、一般市民の下水道情報に対する関心は高まっていると思います。（40 歳代女性、23 区）

７.「学校・教育機関との連携」に関連した意見

- ◆ 社会見学実習の一環として特に小中学級の生徒たちに関心が持てる取り組みを継続する。（70 歳以上男性、23 区）
- ◆ 小・中学校での広報活動。例えば、文化祭等の学校行事の時に下水道ブースを設置したり、授業の一環として社会科などで取り上げる。（40 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 学校等で広報誌などを配布する。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 学校から生徒を通じて各家庭へ配布する。（50 歳代女性、23 区）

８.「新聞・雑誌・フリーペーパーの活用」に関連した意見

- ◆ メトロガイドなどのフリーペーパーに活動などを掲載する。（30 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 人気のあるフリーマガジンの中に広告を載せるとか、エコ系の雑誌などに広告を載せるとか。（20 歳代女性、23 区）
- ◆ 下水道局の仕事や様々な取り組みについて、新聞報道で取り上げてもらったり、広告を掲載する。（50 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 新聞広告。（30 歳代男性、多摩地区）

９.「全戸ポスティング」に関連した意見

- ◆ とにかく広報活動が不足している。都の広報紙の付録のような形か、あるいは独立に、広報紙を戸別に（投げ込みないし新聞の折り込み）年数会配布するようなことをやって

はどうか。置いてあるだけでは手に取ってみようという気にはならない。置場所を増やしても効果は少ないだろう。（60 歳代男性、多摩地区）

- ◆ 大変だけど、①個別配布/世帯、さもなくば②自治会/町会回覧が必要では？（70 歳以上男性、23 区）
- ◆ 各戸に配布は難しいのでしょうか 。(70 歳以上女性、多摩地区）
- ◆ 財政面や人員面で難しいとは思いますが、年度ごとに各家庭に配布すれば目を通して貰える確率は上がると思います。様々な場所に置いてあっても、置き場に注目しなければ気付かれないと思います。（40 歳代女性、多摩地区）

１０.「検針票と一緒に配布」に関連した意見

- ◆ 検針票の配布の時にパンフレットを一緒に配布する。（50 歳代男性、23 区）
- ◆ 水道の検針票に年に１回、リーフレットを入れる。（30 歳代女性、23 区）
- ◆ 水道料金表届け時に、安価なパンフレットを配布できればと思います。（50 歳代男性、多摩地区）
- ◆ 水道・下水道使用量等のお知らせと一緒に広報活動誌を入れる。（60 歳代女性、23 区）

１１.「現状でよい」に関連した意見

- ◆ 個人的には未だ見てない関連情報があるので、とりあえずは現状で良いと思ってます。(60 歳代男性、多摩地区）
- ◆ ある程度の広報誌の作成は価値があります（40 歳代女性、23 区）

１２.「その他」に関連した意見

- ◆ 都のＨＰやお知らせなどに、バナー広告をどんどん出し、興味を持ってもらう。こんなことをやっているというＰＲをこまめに出す。（40 歳代女性、多摩地区）
- ◆ 皆が手に取れるようにすることも大事だと思うが、そういう類の広報紙は多すぎてよく見なかったり、わすれてしまったりする。子供の学校を通じてとか、町内会をつうじるとか、個人に対してという要素のほうが読むと思う。（40 歳代女性、23 区）
- ◆ 大変だけど、①個別配布/世帯、さもなくば②自治会/町会回覧が必要では？（70 歳以上男性、23 区）

以　上